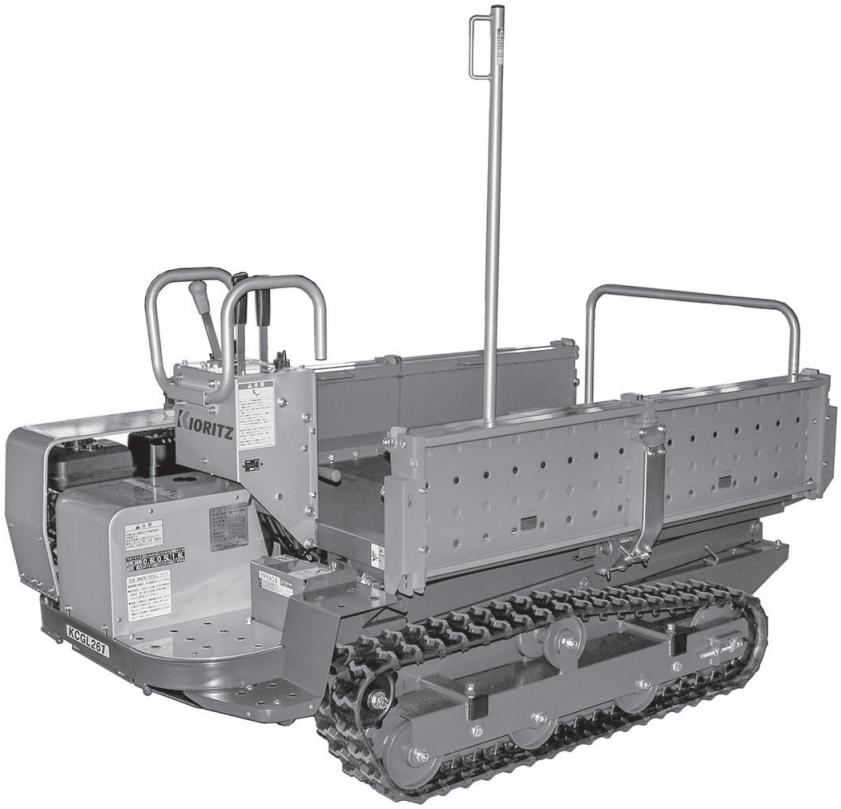
KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立農用高所作業機
KCGL261



⚠ 注意

本機は個人農家向けの農用高所作業機です。
高所作業車とは異なりますので高所における工事、点検、補修等の作業には使用しないでください。

⚠ 警告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、**共立農用高所作業機** をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、製品の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後も、必要に応じいつでも読めるように保管してください。

お願い

- ●高所作業機を初めて使用する人は、お買い求めの販売店やＪＡから作業注意事項について説明を受けてください。
- ●この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- ●本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- ●この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかにお買上げいただいた販売店・ＪＡにご注文ください。
- ●この取扱説明書には、安全に作業していただくために、**「安全に作業をするために必ずお守りください」**を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ●ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買上げいただいた販売店・ＪＡへご相談ください。

おことわり

- ●本製品は改良のため､使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ●本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

説明記号の見方

⚠危険	その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告文に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。
［重要］	誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、製品の破損や、故障の原因になります。

本製品のオーバーホール期限について

本製品は、経時的に材質が変化したり、繰返し使用されることにより、劣化、摩耗、疲労をおこします。これが原因で重大な人的および物的災害が発生するおそれがありますので、安全性をより高めるために、７０００時間または７年使用時のいずれか早く到来する方をオーバーホール期限とします。オーバーホール期限までに製品のオーバーホールをし、安全な状態で作業をされることをお勧めします。オーバーホールはお買上げいただきました販売店・ＪＡを通じまして、株式会社やまびこにご相談ください。

本製品の使用目的について

本製品は、農用高所作業機ですので、農用の高所作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は、保証書をご覧ください。）

本製品を快適にお使いいただくために

エンジン始動・停止時には、エンジンオイルの油温を上げる為、十分に暖機運転を行ってください。油温が低い状態で使用された場合、**エンジンオイルが白濁**するおそれがあります。

本文の概要

1章 安全に作業をするために必ずお守りください	●安全に関する重要な内容を、代表的な作業項目について説明しています。個別の作業については、各項目をみてください。また、各安全銘板の内容と貼付け位置を示しています。
2章 保証とサービスについて	●保証とアフターサービスについて説明しています。
3章 各部のなまえと各操作部のはたらき	●本文中、よく使う部品の名称の紹介と、よく使う操作レバー、および部品の位置とはたらきについて説明しています。
4章 運転と作業のしかた	●エンジンの始動から走行のしかた、および運搬台の使用のしかたを説明しています。
5章 作業後の手入れについて	●製品を最良の状態にしておくために、毎作業後および長期間使用しないときの、手入れのしかたを説明しています。
6章 手入れと点検・調整について	●長期間故障がなく、製品を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明しています。
7章 不調診断	●正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明しています。修理に出す前に確認してください。
8章 用語解説	●本文中に、出てくる用語について説明しています。
9章 その他	●仕様、および主要消耗部品について説明しています。
10章 電気回路図	●電気回路図を載せています。

目　次

はじめに　1

お願い……1
おことわり……1
説明記号の見方（危険・警告・注意・重要）……2
本製品のオーバーホール期限について……2
本製品の使用目的について……2
本製品を快適にお使いいただくために……2

本文の概要　3

1章　安全に作業をするために必ずお守りください　6

1．作業者の体調・服装について……6
2．使用する製品について……7
3．運転前・作業前点検をするとき……8
4．作業をするとき……14
5．トラックへの積込み・積降しをするとき……22
6．格納をするとき……25
7．安全銘板の貼付け位置……26

2章　保証とサービスについて　28

保証書は大切に保管してください……28
アフターサービスをお受けになるときは……28
製品の廃棄について……28

3章　各部のなまえと各操作部のはたらき　29

4章　運転と作業のしかた　31

1．運転前の点検……31
2．燃料の点検・給油のしかた……33
3．エンジンの始動・停止のしかた……34
4．発進・旋回・変速・停止のしかた……37
5．各部の操作のしかた……40
6．坂道での運転のしかた……43
7．樹園への出入りのしかた……43
8．トラックへの積込み・積降しのしかた……44

5章 作業後の手入れについて 45

1．作業後の手入れ……45
2．長期間使用しない場合の手入れ……46

6章 手入れと点検・調整について 48

1．定期点検一覧表……50
2．定期交換部品……51
3．各部の注油・グリスアップのしかた……52
4．各部オイルの点検・交換のしかた……54
5．エアクリーナの掃除・交換のしかた……56
6．燃料こし器の掃除のしかた……56
7．キャブレタの点検のしかた……57
8．燃料ホース・電気配線の点検のしかた……57
9．点火プラグの点検のしかた……58
10．ヒューズ点検・交換のしかた……58
11．バッテリの点検・整備のしかた……59
12．クローラの張り調整のしかた……60
13．サイドクラッチレバーの点検のしかた……61
14．ブレーキの点検のしかた……61
15．クラッチレバーの点検のしかた……62
16．前・後進切換の点検のしかた……62
17．締付けをするところ……63

7章 不調診断 64

1．エンジンがかからない……64
2．エンジンの力がない……65
3．各部に振動が多い……65

8章 用語解説 66

9章 その他 67

1．主要諸元……67
2．主要消耗部品……68

10章 電気回路図 69

1章 安全に作業をするために必ずお守りください

●本製品は圃場内の作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。
●ここに記載されている注意項目は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
●ここに記載されている注意項目を守らないと死亡を含む傷害事故や製品の破損が生じるおそれがあります。
※ご購入された製品によっては該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

1．作業者の体調・服装について

⚠警告

■こんなときは運転しない

●過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
●睡眠不足の人。
●視力不足のため表示内容が読めない人。
●取扱説明書の内容が理解できない人。
●酒を飲んだとき。
●妊娠しているとき。
●１８歳未満の人。
●運転が未熟な人。

【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。



■作業に適した服装

はち巻き・首巻き・腰タオル・音楽用のイヤホンなどは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した、防護具などを付け、だぶつきのない服装をしてください。

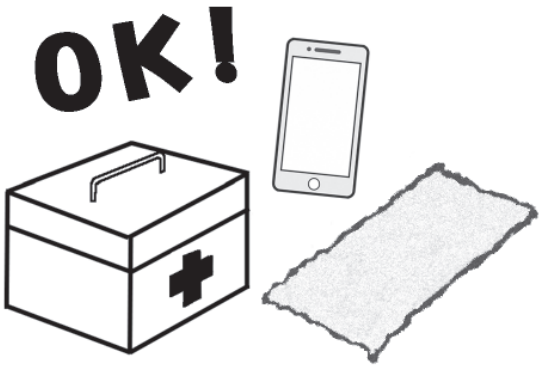
【守らないと】
製品に巻込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



■けがへの備え

万一の事故やけがへの準備をしてください。
●救急箱（応急手当用）
●タオルやてぬぐい（止血用）
●呼子や携帯電話（外部との連絡用）

【守らないと】
緊急の応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化するおそれがあります。



2．使用する製品について

⚠注意

■点検、整備をおこなう

使用前と使用後には必ず製品の点検、整備をしてください。特に、クラッチレバー・サイドクラッチレバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。

【守らないと】

整備不良による事故や製品の故障を生じるおそれがあります。

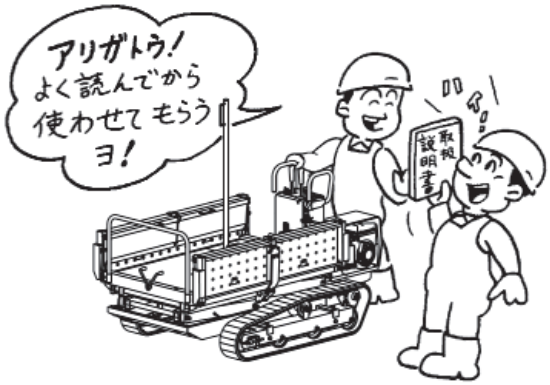


■製品を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「**取扱説明書**」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

説明不足により、製品の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。

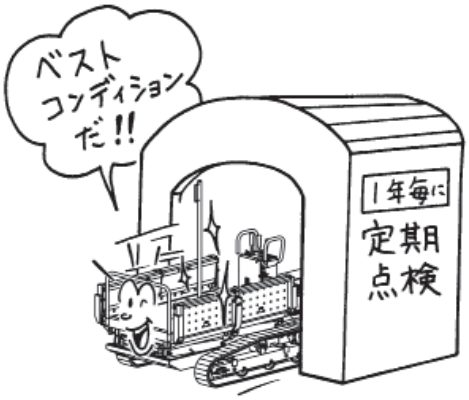


■定期点検、整備を受ける

１年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料ホースは２年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故や製品の故障をまねくおそれがあります。

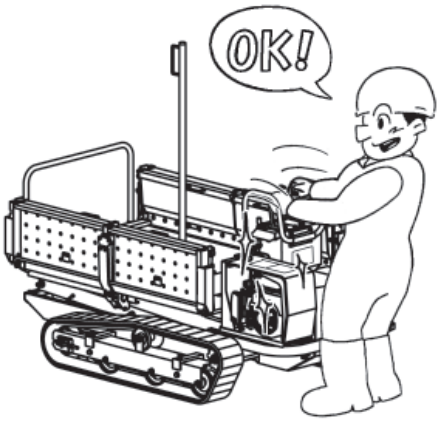


■安全銘板が破損しているときは、新しいものと交換する

製品には、操作安全銘板が貼り付けてあります。内容を十分に理解して、その内容に従ってください。
操作銘板が汚れで読めなくなった場合は、きれいにふき取り、読めるようにしてください。またはがれて紛失した場合などは、販売店に注文し、新しい銘板を貼り付けてください。

【守らないと】

誤った操作により、事故をひきおこす原因になります。



3．運転前・作業前点検をするとき

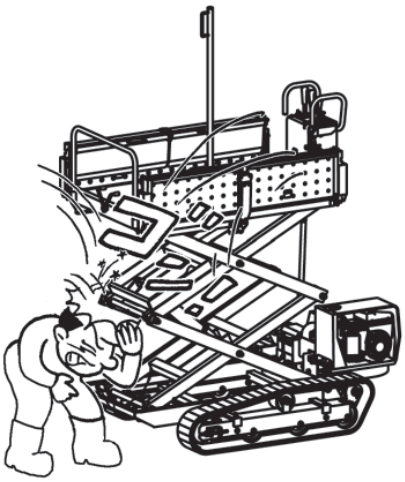
⚠危険

■作業荷台を上げての点検、整備は荷台落下防止金具を使用

作業荷台を上げての点検、整備は、必ず荷台落下防止金具をセットし、作業荷台が落下しないように固定してから行ってください。（P 49**「荷台落下防止金具のセットのしかた」**参照）

【守らないと】

何らかの原因で作業荷台が落下し、傷害事故をおこすおそれがあります。



■注油・給油はエンジンが冷えてから

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油をしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。

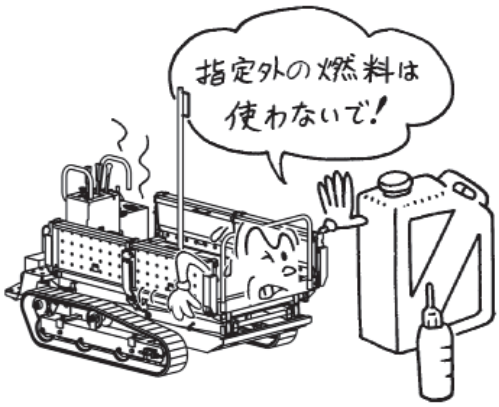


■指定の燃料を使用

取扱説明書で指定している燃料を使用してください。また、ガソリンはポリタンクで保管しないでください。必ず鋼製燃料タンクで保管したガソリンを使用してください。

【守らないと】

性能が落ちたり火災事故をおこすおそれがあります。



■燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、火災をおこすおそれがあります。



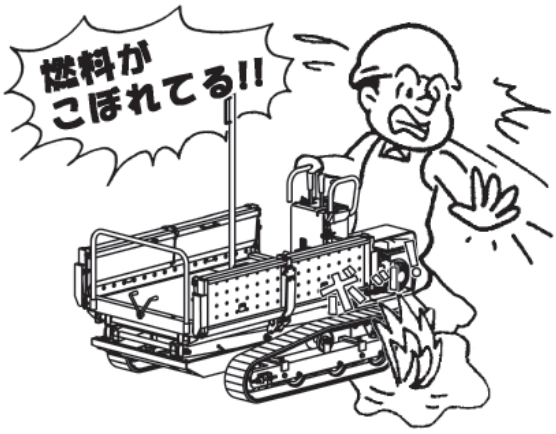
⚠危険

■燃料キャップを締め、こぼれた燃料はふき取る

燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。

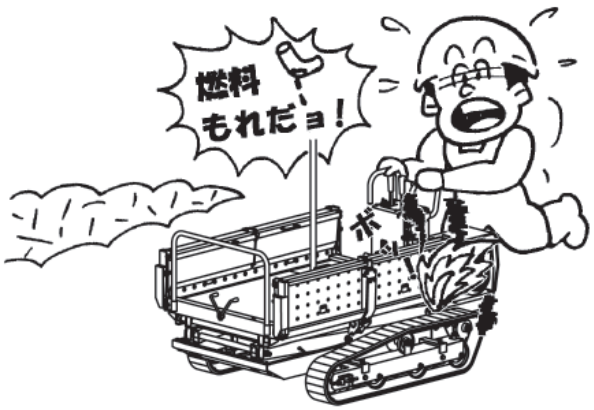


■燃料もれに注意

燃料ホースが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。

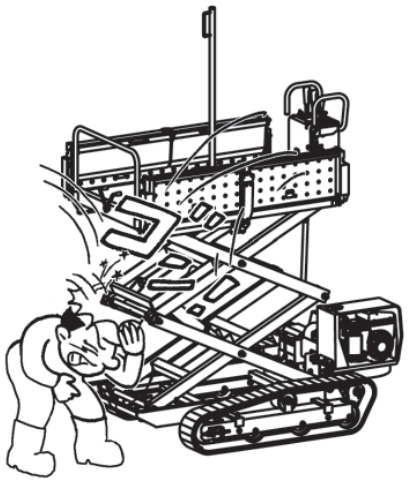


■製品から離れるときは、作業荷台を下げる

製品から離れるときは、作業荷台を一杯下げてから離れてください。

【守らないと】

何らかの原因で作業荷台が落下し、傷害事故をおこすおそれがあります。

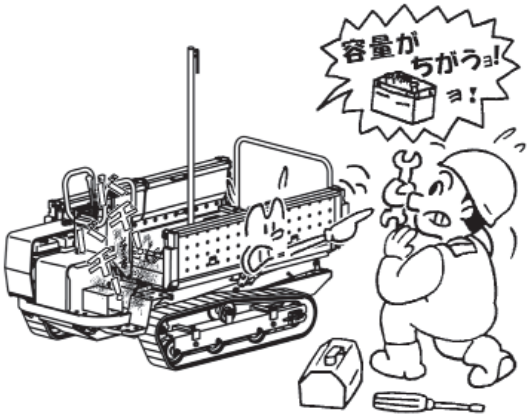


■必ず規定のバッテリを使用

バッテリを交換するときは、必ず規定のバッテリを使用してください。

【守らないと】

火災の原因となることがあります。



⚠危険

■バッテリの点検は火気厳禁

バッテリの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリに引火し、爆発して火傷などを引きおこすおそれがあります。

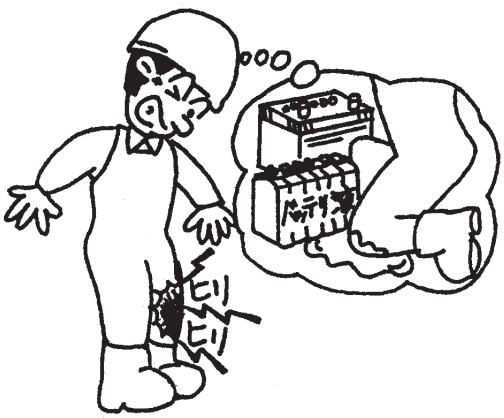


■バッテリ液は体につけない

バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。目に入った場合は、大量の水で洗い流し、医師の診察を受けてください。

【守らないと】

火傷をしたり、服が破れるおそれがあります。



■バッテリ取付け、取外しは正しい手順で

バッテリを取付けるときは⊕側を先に取付け、取外すときは⊖側から外します。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故を引きおこすおそれがあります。



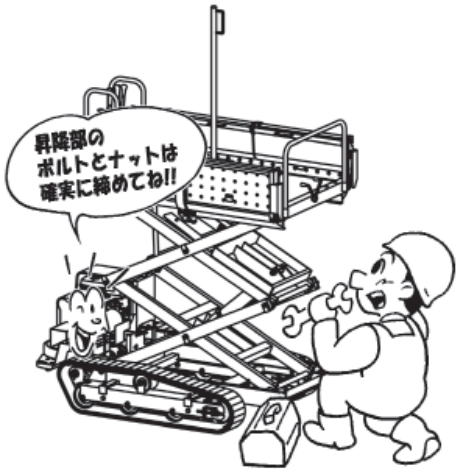
⚠警告

■昇降部のボルトとナットの締付確認

作業前には、必ず昇降部のボルトとナットの締付けを確認してください。（P 63「締付けするところ」参照）

【守らないと】

ナットの脱落、ボルトの折損などにより転落事故の原因となります。



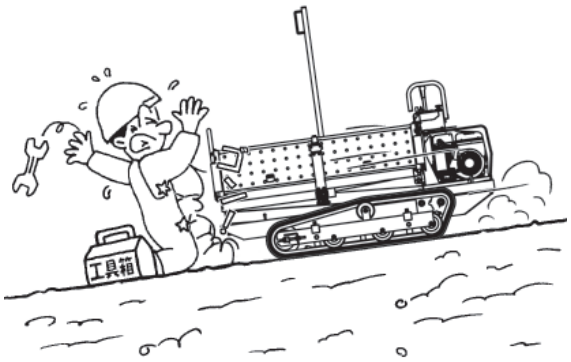
⚠警告

■点検、整備は平坦な安定した場所で

交通の危険がなく、製品が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、クローラには車止めをして点検、整備をしてください。

【守らないと】

製品が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



■バッテリ液を「下限（LOWER)」以下にしない

バッテリ液は「上限（UPPER LEVEL)」と「下限（LOWER LEVEL)」の間にあることを確認し、「下限（LOWER LEVEL)」以下にしないでください。

【守らないと】

「下限（LOWER LEVEL)」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

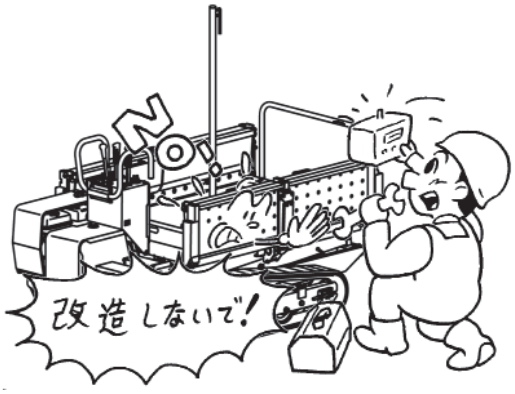


■製品の改造禁止

純正部品以外の部品を取付けないでください。改造をしないでください。

【守らないと】

製品の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。

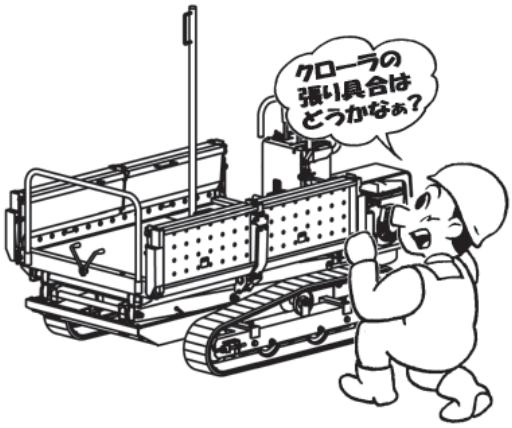


■クローラは必ず点検

クローラの張りを調整してください。クローラに亀裂がないか確認してください。

【守らないと】

クローラが外れたり、切れたりして思わぬ事故をまねくおそれがあります。



⚠警告

■トラックローラ取付ボルトの締付け確認

トラックローラの取付けボルトは、確実に締付けてあるかを確認してください。

【守らないと】

クローラが外れたりして思わぬ事故をまねくおそれがあります。

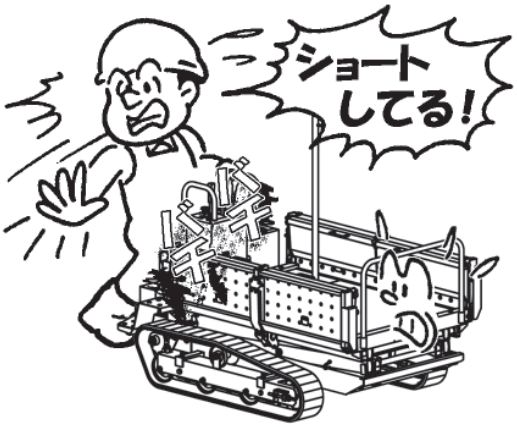


■電気部品・コードを必ず確認

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして火災事故をおこすおそれがあります。

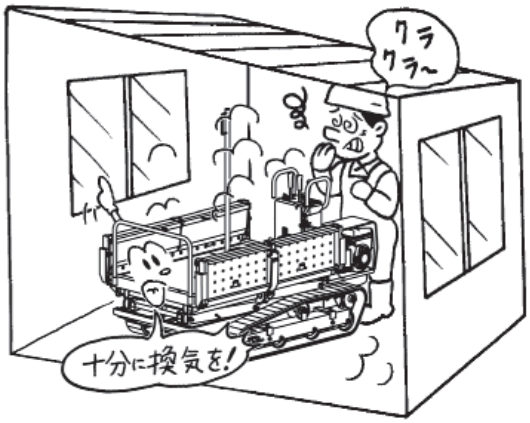


■排気ガスには十分に注意

閉切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。



■マフラー・エンジン回りのゴミは取除く

マフラーやエンジン周辺部にわらくず・ゴミ・燃料などが付着していないか、またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないか毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故やオーバーヒートを引きおこすことがあります。



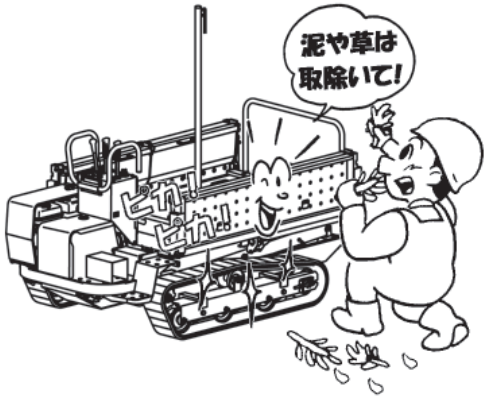
⚠警告

■アイドラーの草・泥などは取除く

アイドラーに草や泥が付着すると、クローラが外れたり切断するおそれがあります。作業前後に取除いてください。

【守らないと】

転倒・転落のおそれがあります。



⚠注意

■ブレーキ・サイドクラッチレバーは必ず点検

ブレーキの効きが悪かったり、サイドクラッチレバーの取付部にガタや遊びがないか、点検してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。

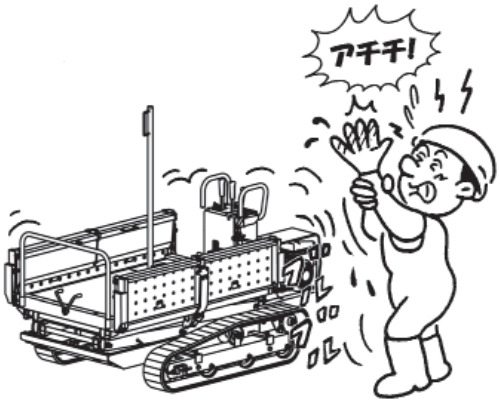


■点検、整備は高温部が十分冷えてから

マフラーやエンジンなどの高温部分が十分に冷えてから点検、整備をしてください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこしたり、火傷をするおそれがあります。

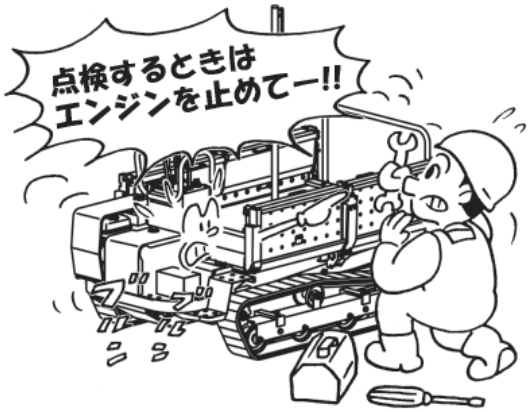


■点検、整備中はエンジン停止

点検、整備、修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

製品の下敷きや巻込まれてけがをするおそれがあります。

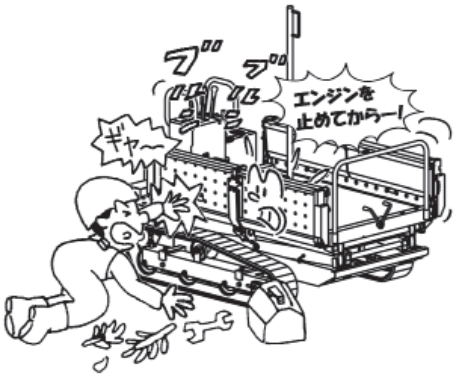


⚠注意

■部品を交換したり、巻付いた草などを取除くときはエンジン停止

【守らないと】

製品に巻込まれて重傷を負うおそれがあります。

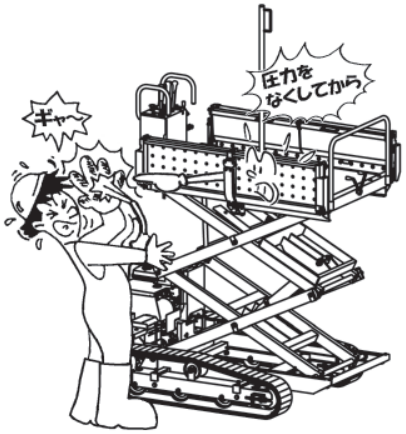


■高圧オイルに注意

油圧ホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、点検や修理などで、継手やホースを外す前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは、皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故をおこすおそれがあります。

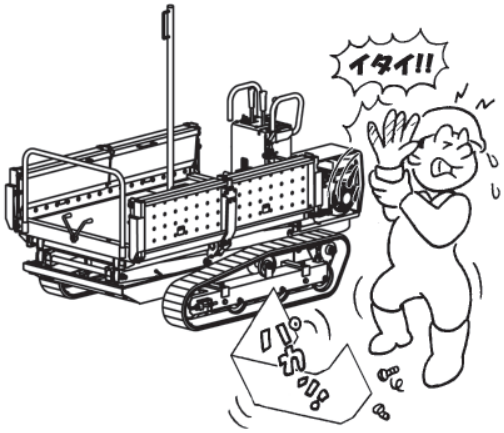


■カバー類は、必ず取付ける

点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】

製品に巻込まれたりして、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



4．作業をするとき

⚠危険

■墜落制止用器具は墜落制止支柱に

高所作業をするときは、必ず墜落制止用器具を使用してください。墜落制止用器具は、墜落制止支柱に確実にセットしてください。

【守らないと】

転落のおそれがあります。



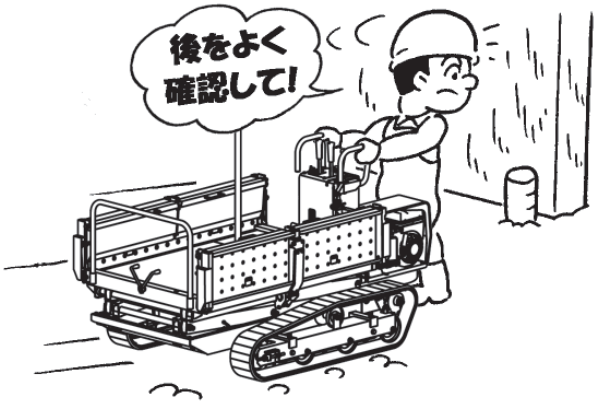
⚠危険

■後進するときは低速で

後進で移動するときは低速で行い、転倒しないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認して障害物と製品との間にはさまれないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。

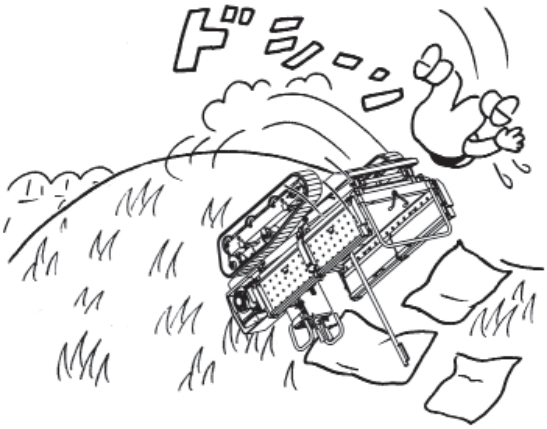


■傾斜地５度以上使用禁止

傾斜地での使用限度角度は５度以内にして、山側で使用してください。守らないと、転倒し重大な傷害をまねくおそれがあります。

【守らないと】

転倒し重大な傷害をまねくおそれがあります。

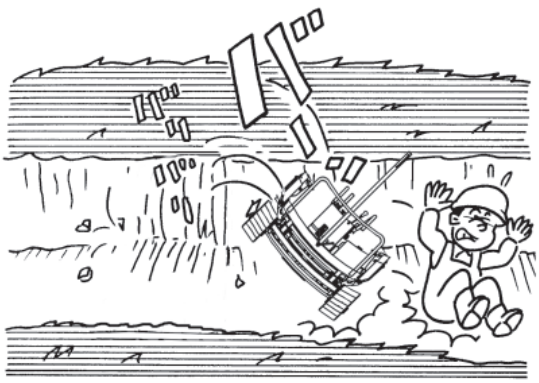


■移動時は路肩に注意

坂道・路肩・障害物乗越え・溝のある場所・軟弱地などでは、十分注意してスピードを落として走行してください。

【守らないと】

転倒・転落などの事故によりけがをするおそれがあります。

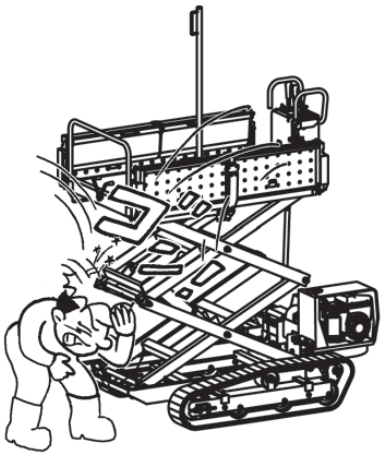


■農用高所作業機の作業台の下は立入厳禁

製品の下にもぐったり、足を踏み入れたりしないでください。

【守らないと】

何らかの原因で製品が動いたときに、傷害事故をおこすおそれがあります。



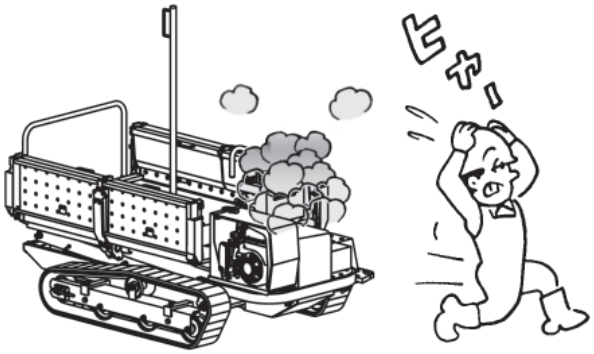
⚠危険

■発火時は、まず身体の安全を確保

エンジンから発火、または排気口以外から発煙したら、まず製品から離れ、身体の安全を確保してください。周囲に類焼しないようにシャベルで砂をかけるか、または消火器で消化してください。

【守らないと】

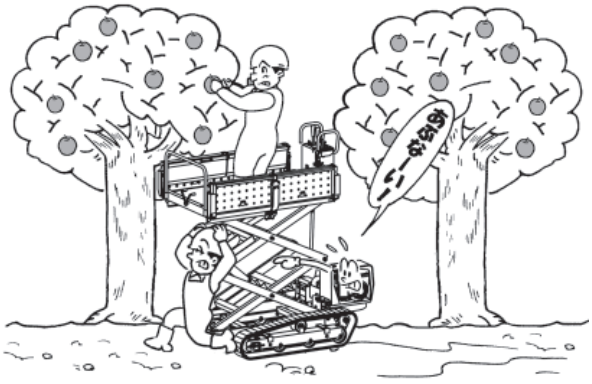
火傷や火災事故を引きおこすおそれがあります。



■高所作業時は機体の周囲、頭上の安全を確認

【守らないと】

はさまれ事故のおそれがあります。

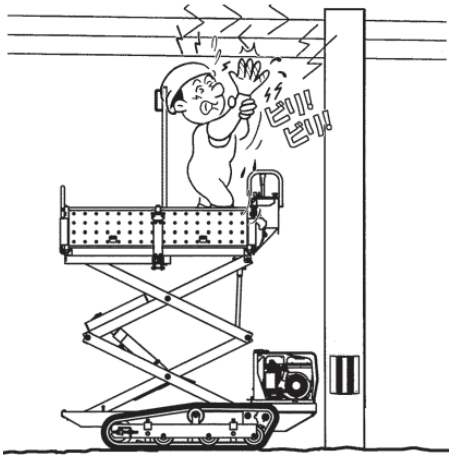


■電線近くの作業禁止

製品は絶縁されていません。

【守らないと】

感電事故のおそれがあります。

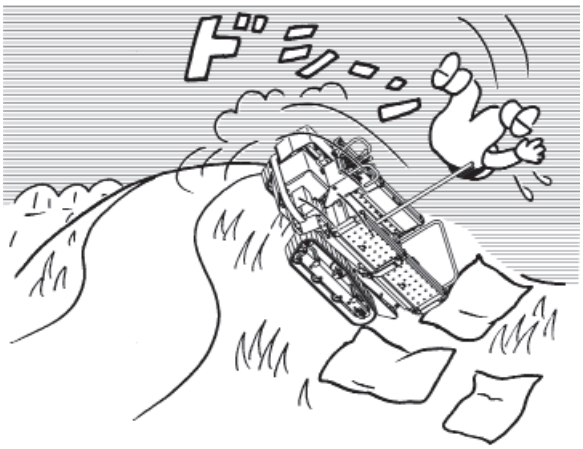


■夜間作業禁止

製品を使用しての夜間作業や、暗闇での点検はしないでください。

【守らないと】

製品に巻込まれたり、視界がきかずバランスを崩し、転倒・転落などの事故によりけがをするおそれがあります。



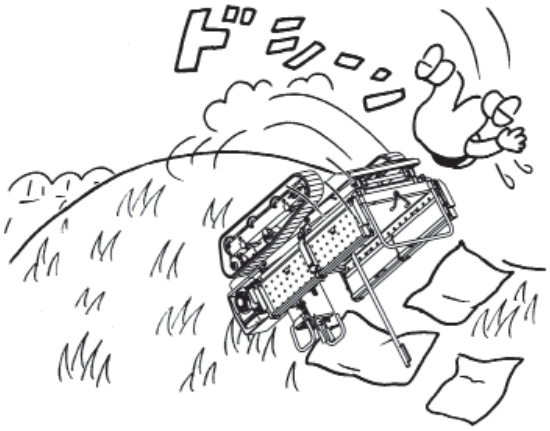
⚠危険

■悪天候、悪路、軟弱地の使用禁止

強風のときや凸凹の多い場所、地面が軟らかい場所では使用しないでください。

【守らないと】

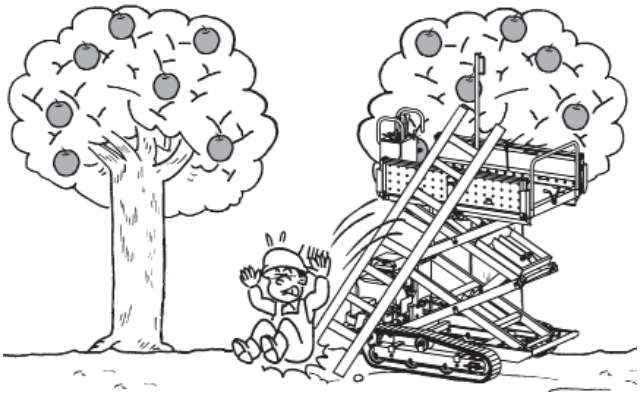
転倒・転落のおそれがあります。



■作業荷台上のハシゴ、補助台使用禁止

【守らないと】

転倒・転落のおそれがあります。



■過積載禁止

最大作業能力（作業台に乗る作業者の全体重を含む）以内で運転してください。また、積荷をした状態では、必ず作業荷台を完全に下げて走行してください。

【守らないと】

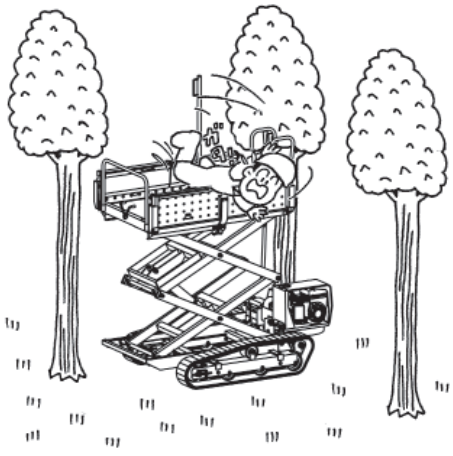
転倒や製品の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



■作業荷台からの乗り出しや、荷物のはみ出し禁止

【守らないと】

転倒・転落事故をおこすおそれがあります。



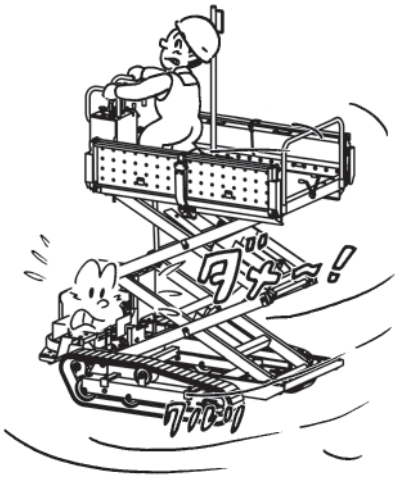
⚠危険

■作業荷台を上げた状態では走行禁止

移動時は作業荷台を下げて、歩行運転をしてください。

【守らないと】

バランスが崩れやすくなり、死亡事故や重大な傷害、物的損害をまねくおそれがあります。



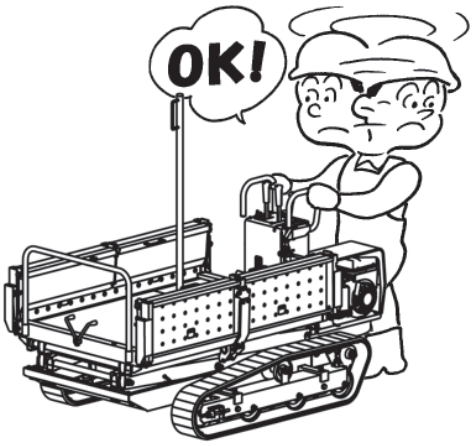
⚠警告

■エンジン始動時は周囲確認

エンジン始動時は、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

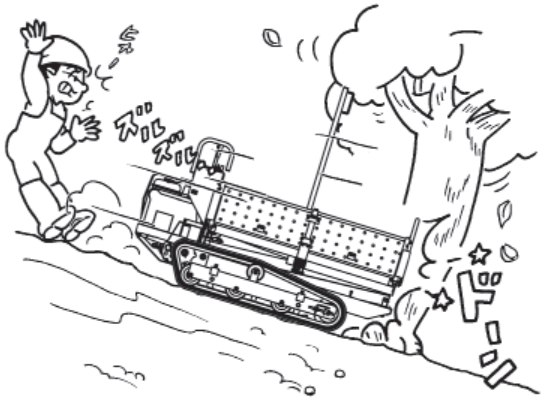


■急な坂道では サイドクラッチレバー操作禁止

急な下り坂では、サイドクラッチレバーを操作しないでください。急な下り坂では、エンジンブレーキを利用し、いつでもブレーキを掛けられる姿勢で運転してください。

【守らないと】

思わぬ方向に製品が旋回して、転落などの事故をまねくおそれがあります。

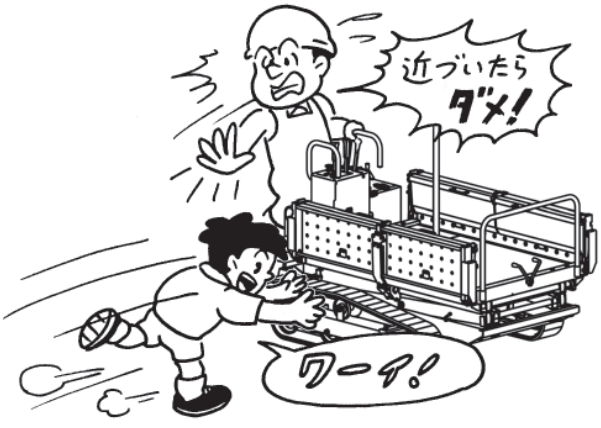


■人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



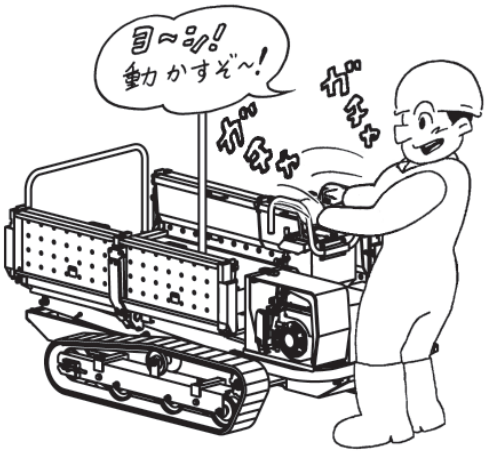
⚠警告

■周囲に合図してゆっくりと発進

エンジン始動時は、必ずクラッチレバーを「切」位置にし、周囲の人に合図をしてからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

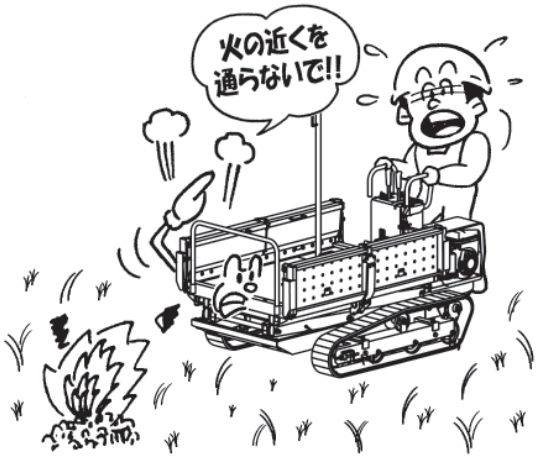
思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



■燃えているゴミの上やその近くは走行禁止

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火し、火災になるおそれがあります。

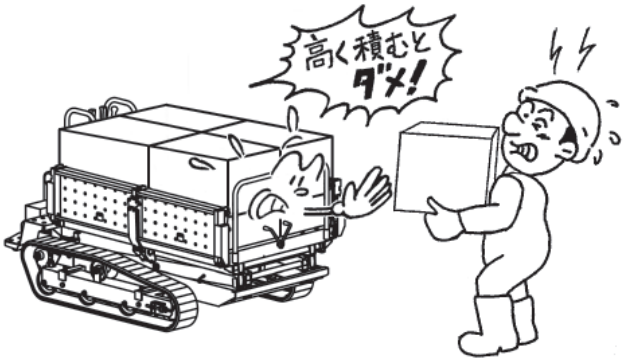


■積載物を高く積まない

積荷が高くなると製品のバランスが崩れやすく、また前方の障害物の確認ができませんので積載物を高く積まないでください。

【守らないと】

製品の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

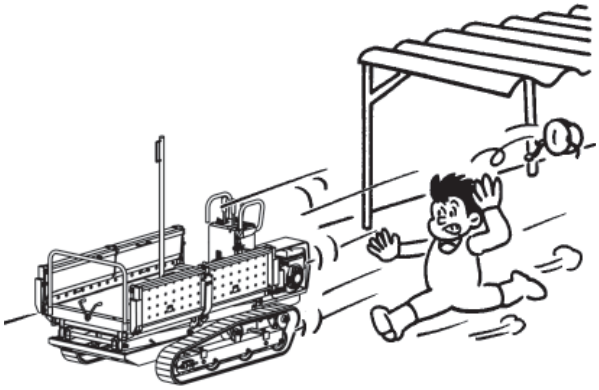


■ブレーキの使い過ぎ禁止

急な下り坂での走行は、十分注意して行ってください。低速にして、エンジンブレーキを利用し、いつでもブレーキを掛けられる姿勢で運転してください。

【守らないと】

ブレーキが効かなくなり、事故をおこすおそれがあります。



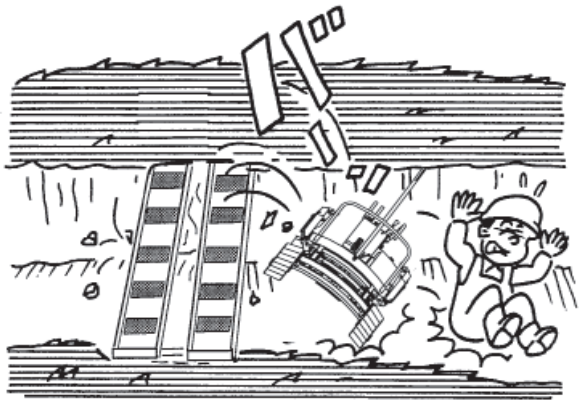
⚠警告

■急坂道・あゆみ板の上では変速禁止

急坂道やあゆみ板の上では、「前進」、「後進」の低い速度で走行してください。

【守らないと】

製品の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。

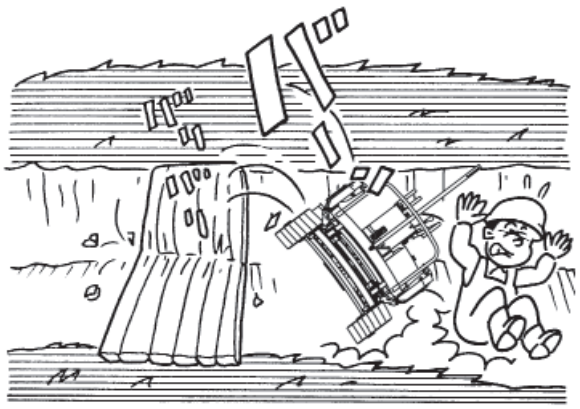


■溝・あぜを渡るときはあゆみ板を使用

樹園に入るとき、溝・あぜを渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が製品に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をまねくおそれがあります。

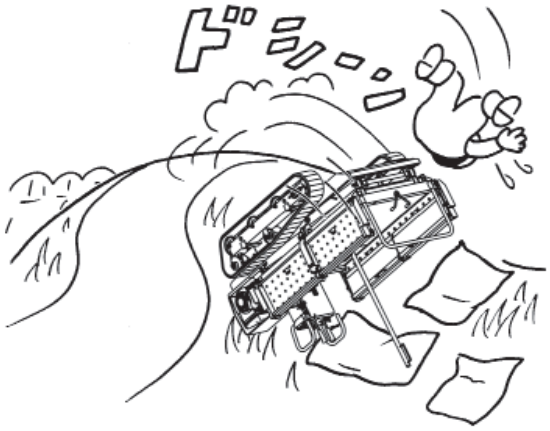


■坂道やあゆみ板の上ではだ性運転禁止

坂道やあゆみ板の上での走行は、十分注意して行ってください。クラッチレバーを「切」位置にしたり、「N（中立）」位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

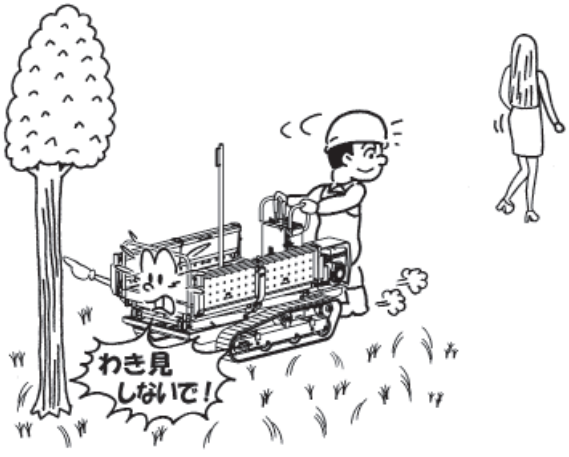
製品の重みで坂を下り、転落などの事故をまねくおそれがあります。



■わき見運転や手放し運転禁止

【守らないと】

傷害事故の原因となります。



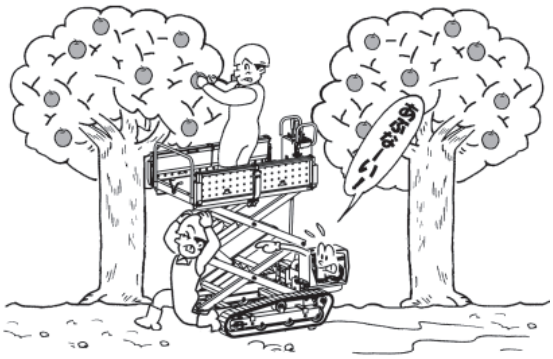
⚠警告

■作業中は近づかない

作業荷台は上下の動きをします。周囲に合図し、作業者以外の人を近づけないでください。

【守らないと】

はさまれたり障害物に接触して事故をまねくおそれがあります。



⚠注意

■農用の高所作業以外は使用禁止

製品は、個人向けの農用高所作業機です。高所作業車とは異なりますので高所における工事、点検、補修等の作業には使用しないでください。また公道での走行はしないでください。

【守らないと】

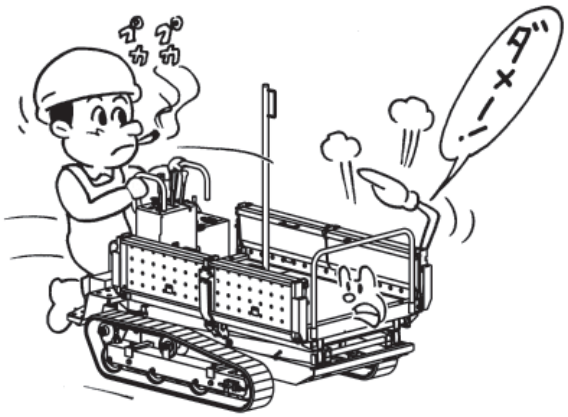
思わぬ事故をまねくおそれがあります。



■くわえたばこでの作業厳禁

【守らないと】

火災など、思わぬ事故の原因となります。

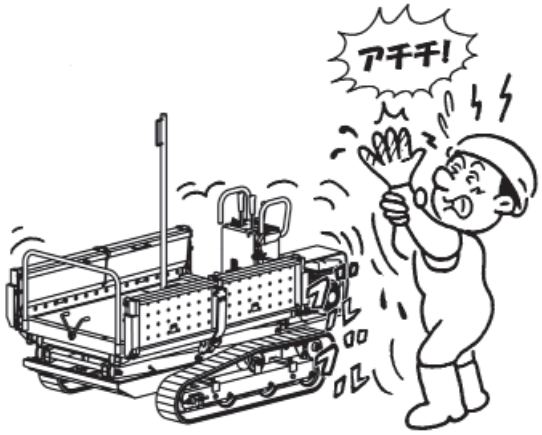


■マフラーの高温に注意

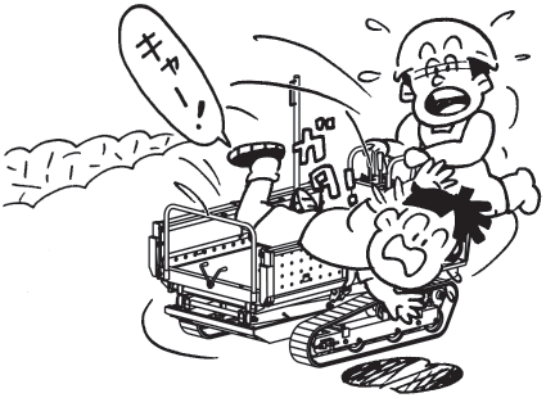
運転中およびエンジン停止直後の、マフラー・エンジンは高温ですので触れないでください。

【守らないと】

火傷をするおそれがあります。



⚠注意



■作業荷台には乗らない

走行中は作業荷台に乗って運転したり、人を乗せないでください。

【守らないと】

転落などにより、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

■急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、十分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道、カーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、製品の破損をおこすおそれがあります。

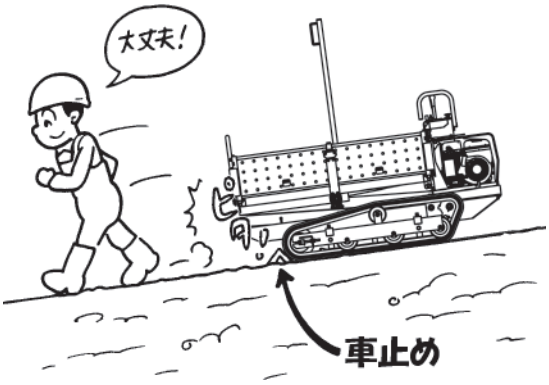


■製品から離れるときは平坦地に置きエンジン停止

製品から離れるときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを停止し、クラッチレバーを「切」位置にしてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

【守らないと】

製品が動きだし、事故の原因となります。



5．トラックへの積込み・積降しをするとき

⚠警告

■強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用

積込み・積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所に、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛けて車止めをしてください。使用するあゆみ板は、強度・長さ・幅が十分あり、スリップしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

《あゆみ板の基準》

- **長さ**…トラックの荷台高さの４倍以上
- **幅**……クローラ幅の 1.5 倍以上
- **強度**…製品の総重量に十分耐えるもの（１本当たり）
- **表面**…スベリ止めのあるもの
- **形状**…固定フックのあるもの

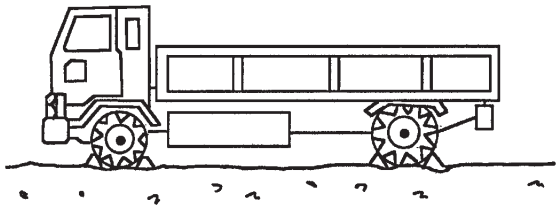
⚠警告

■トラックには必ず車止めを

積込むトラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、サイドブレーキを掛けて車止めをしておいてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。

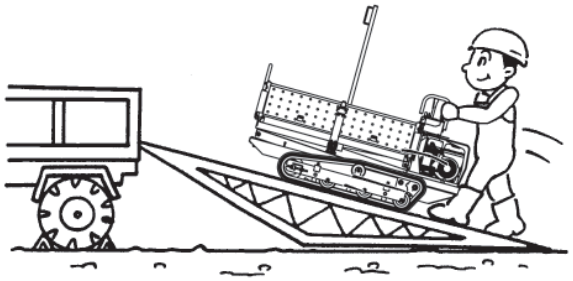


■あゆみ板は確実に掛ける

あゆみ板をそれぞれのクローラに合わせ、フックをトラックの荷台へ確実に掛けてください。

【守らないと】

あゆみ板が外れて製品が転落・転倒し、死亡事故や重大な傷害、製品の破損をまねくおそれがあります。

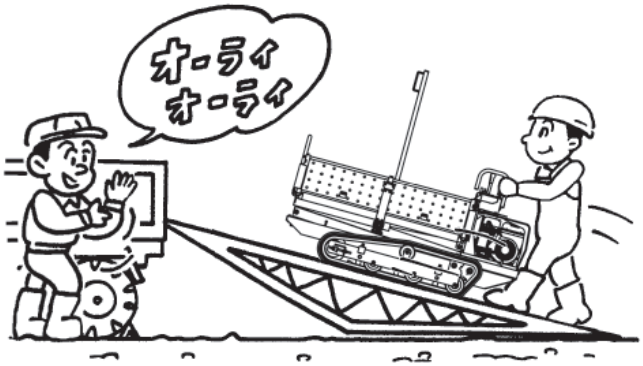


■積込み・積降し作業は誘導者をつけて

トラックなどからの積込み・積降し作業は、誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

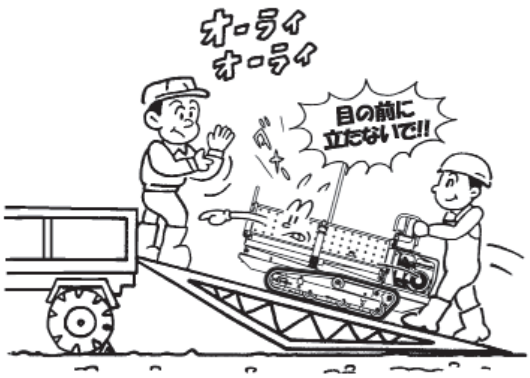


■積込み・積降し作業中、製品の前には絶対立たない

トラックなどからの積込み・積降し作業中は、製品の直前には絶対に立たないでください。

【守らないと】

傷害事故をまねくおそれがあります。



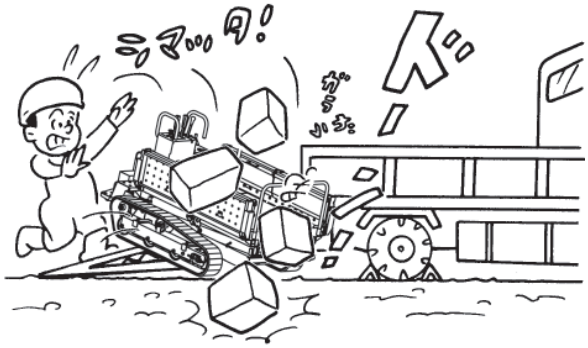
⚠警告

■作業荷台を下げてあゆみ板を使用

あゆみ板を使用して積込み、積降しをするときは、製品の作業荷台を下げ、荷物を載せないで使用してください。

【守らないと】

バランスが崩れ、転落などの事故の原因になります。

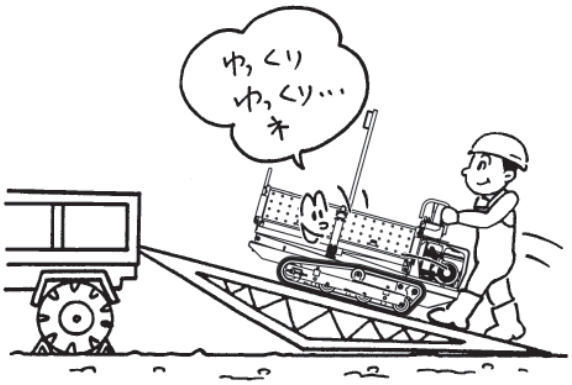


■登るときは前進、降りるときは後進でおこなう

積込みの場合「**前進**」、積降しの場合は「**後進**」の低速で行ってください。あゆみ板とトラックの荷台の継目を越えるときは、急に重心が変わりますので注意して走行してください。乗車運転はしないでください。

【守らないと】

バランスを崩し転落などの事故を引きおこすおそれがあります。

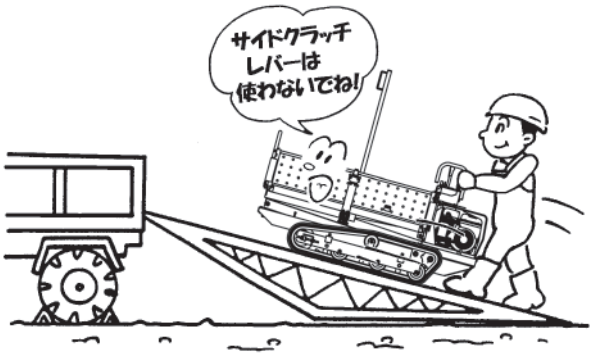


■あゆみ板の上ではサイドクラッチレバー操作厳禁

あゆみ板の上で進路変更をすることがないように前もって進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるための、サイドクラッチレバー操作は絶対にしないでください。方向を直す場合は、平坦な場所に戻ってから行ってください。

【守らないと】

転落などの事故の原因となります。



■ロープでトラックに確実に固定

トラックに載せて移動するときは、製品のエンジンを停止させ駐車ブレーキを掛け、燃料コックを「**閉**」にしてから動かないように車止めをしてください。作業荷台は、最下位置にし、荷物は積まない状態で、強度の十分あるロープでトラックに製品を確実に固定してください。

【守らないと】

トラックから製品が転落したりして、事故をまねくおそれがあります。



6．格納をするとき

⚠危険

■シートは製品が十分冷えてから

エンジンを停止しエンジン・マフラーなどの高温部が冷えてからシートを掛けてください。長期格納時は、燃料タンク・気化器内の燃料を抜取ってください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすことがあります。



⚠警告

■長期格納時はバッテリとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合は、バッテリを取外し、キーを抜取り保管してください。バッテリを外すときは、㊀側を先に外します。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



⚠注意

■製品の近くに可燃物を置かない

製品を格納するときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを停止してください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。近くに燃えやすい物がないか、また、燃えやすい物があれば取除いてください。

【守らないと】

製品が動きだしたり、火災事故を引きおこすことがあります。



■長期格納時はクラッチを切る

長期間格納する際には、必ずクラッチレバーを「切」位置にしてください。

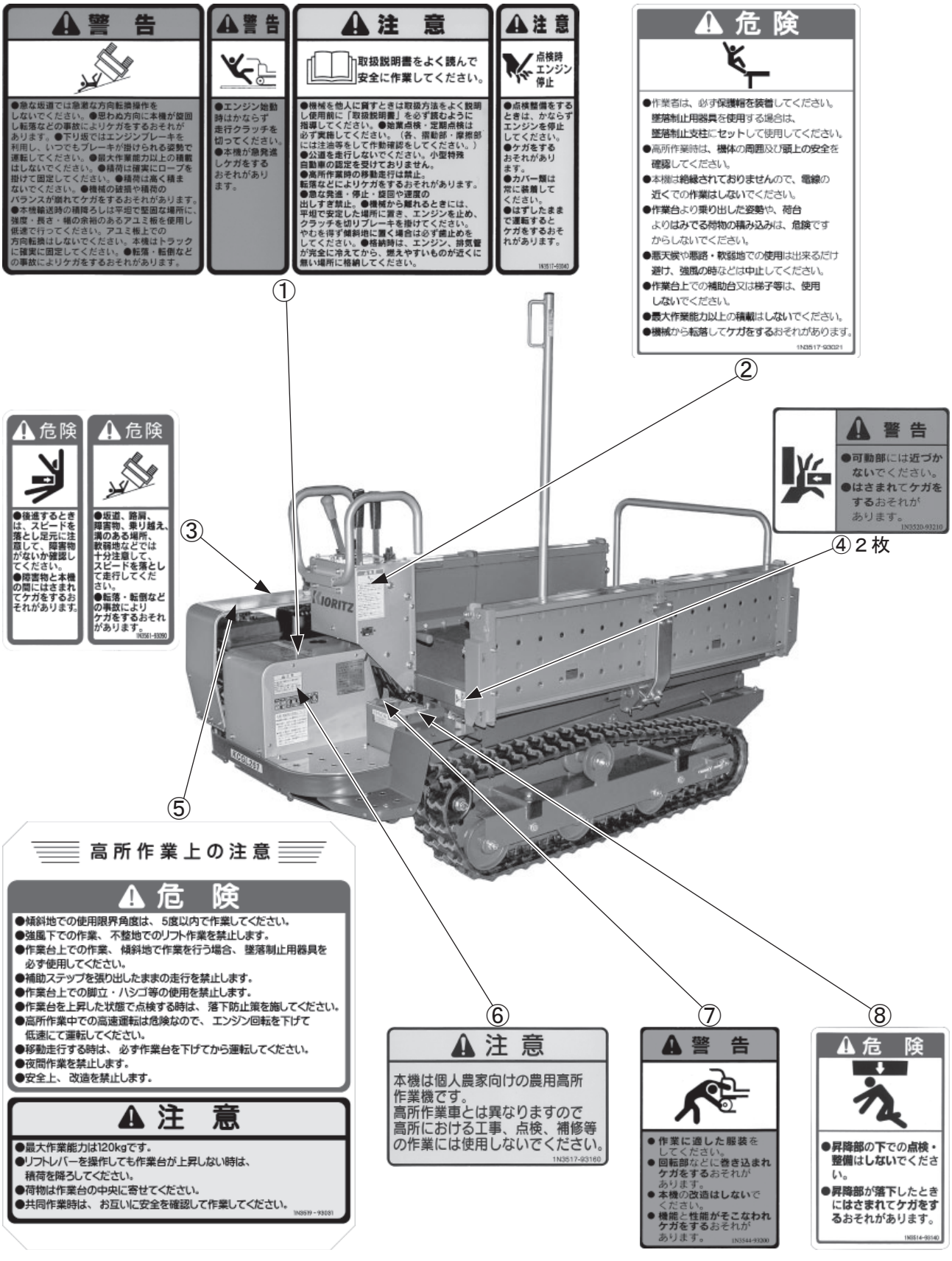
【守らないと】

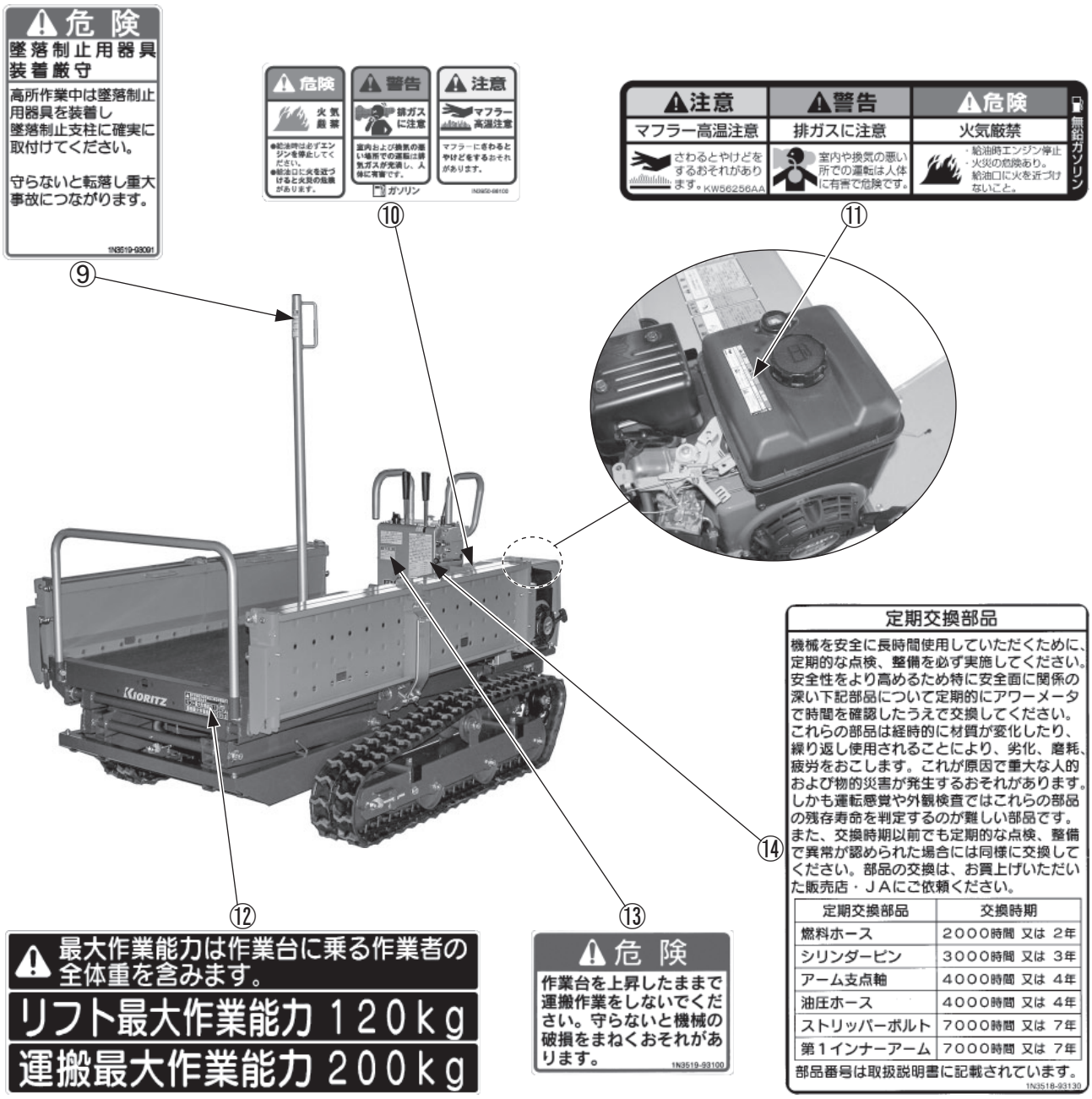
クラッチが切れなくなり、事故を引きおこすおそれがあります。



7．安全銘板の貼付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼付け位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損がないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。





※ No.4は反対側に、No.11は燃料タンク上面にも貼り付けてあります。

No.	部品番号	品名	No.	部品番号	品名
1	1N3517-93040	警告・注意一式	9	1N3519-93091	危険（墜落制止用器具）
2	1N3517-93021	危険（高所作業時）	10	1N3950-86100	危険（火気厳禁）・警告（排ガス）・注意（マフラー）
3	1N3561-93090	危険一式（運搬車固定）			
4	1N3520-93210	警告（可動部）	11	KW56256AA	注意（マフラー）・警告（排ガス）・危険（火気厳禁）
5	1N3519-93031	危険・注意（高所作業上の注意）			
			12	1N3519-93020	最大作業能力
6	1N3517-93160	注意（農用高所）	13	1N3519-93100	危険（作業台上昇）
7	1N3544-93200	警告（服装・改造）	14	1N3518-93130	定期交換部品表
8	1N3514-93140	危険（昇降部の下）			

保証書は大切に保管してください

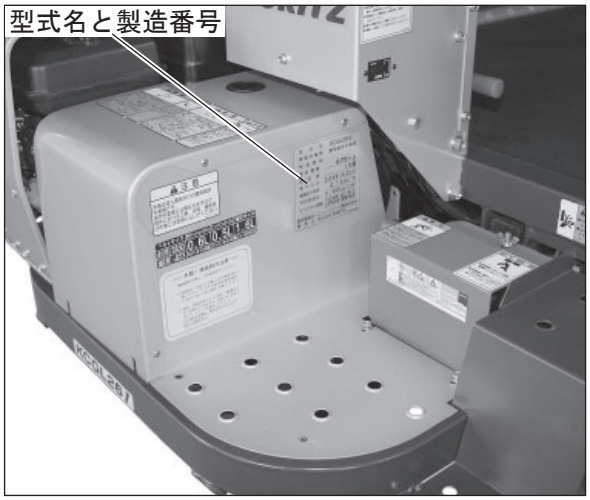
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

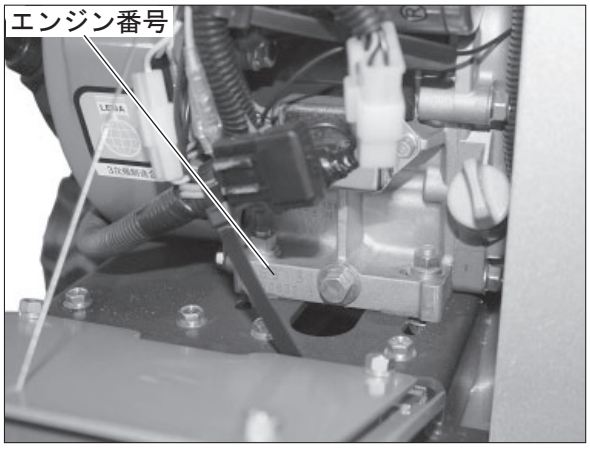
アフターサービスをお受けになるときは

製品の調子が悪いときに点検・処置をしても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買上げいただいた販売店・ＪＡまでご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- ●型式名と製造番号
- ●エンジンの場合はエンジン番号
- ●ご使用状況は？
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- ●どのくらい使用されましたか？
  （約□□□時間使用後）
- ●不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。





〈補修部品の供給年限について〉
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

製品の廃棄について

製品を廃棄する場合、購入された販売店もしくは廃棄物処理業者に依頼してください。
法律に違反する行為は絶対にしないでください。
詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

●キースイッチ
エンジンの始動・停止に使用します。

●クラッチレバー
エンジンからの動力を伝え、レバーを操作した方向に走行します。駐車ブレーキと連動しています。

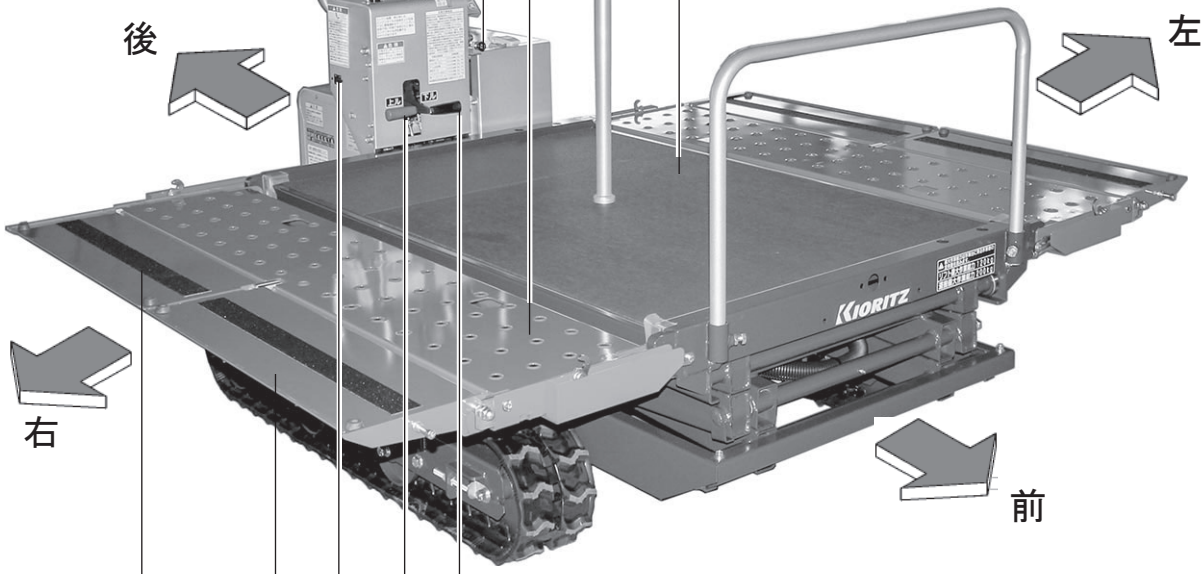
●アクセルレバー
エンジンの回転を上げたり、下げたりするのに使用します。

●チョーク
エンジンを始動するときに使用します。

●荷台ステップ

●墜落制止支柱
墜落制止用器具を留めるための支柱です。

●作業荷台



●油圧フットレバー
作業荷台を上昇・下降させるときに使用します。

●アワメータ
点検、部品交換時に、この時間を目安にします。

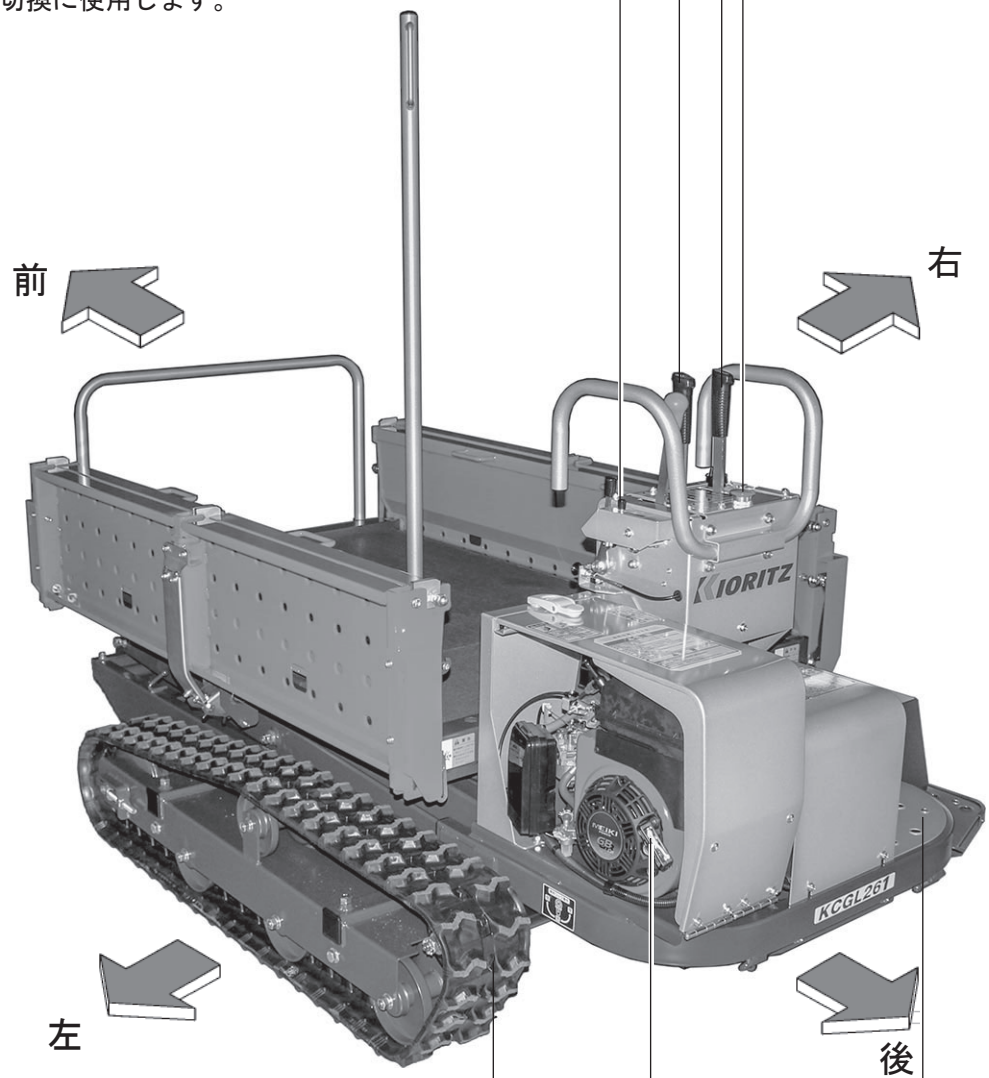
●補助ステップ

●非常停止スイッチ
エンジンを停止するのに使用します。

●右サイドクラッチレバー
右方向に旋回するときに使用します。

●左サイドクラッチレバー
左方向に旋回するときに使用します。

●走行切換レバー
移動走行と作業走行の切換に使用します。



●クローラ

●リコイルスタータ
バッテリの電圧不足のときに手動でエンジンをスタートさせるのに使用します。

●ステップ
作業荷台に乗るときや立ち乗り運転をするときに使用します。

1．運転前の点検

⚠危険

●燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

●エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。

●燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

●燃料ホースが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。守らないと、火傷や火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

●点検、整備は、交通の危険がなく製品が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所に車止めをした上で行ってください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。

●マフラー・エンジン回りのゴミは取除いてください。またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないか点検してください。火災事故やオーバーヒートを引きおこすことがあります。

⚠注意

●点検、整備を行うときは、製品のエンジンを停止させてください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。また、高温部分が十分冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。

●点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。守らないと製品に巻込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

●感電ショック防止のため、運転中はプラグコード、プラグキャップ、点火プラグ部に触れないでください。

安全で快適な作業を行うには、製品を使用する前に必ず始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

点検は次の順序で行ってください。

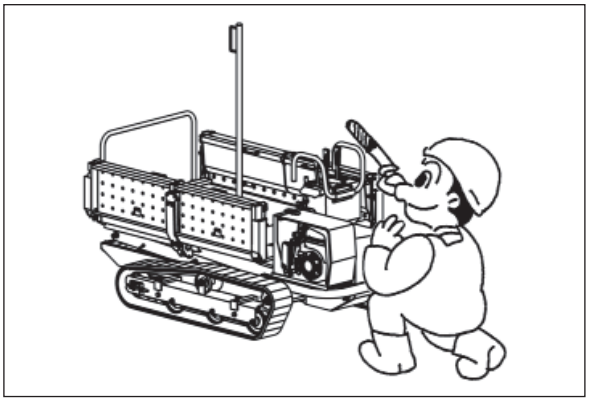
①前日の異常箇所

●前日の作業中に異常を感じたところがあれば作業に支障がないか点検します。

②製品のまわりを回ってみて

●各部の変形・損傷・汚れ

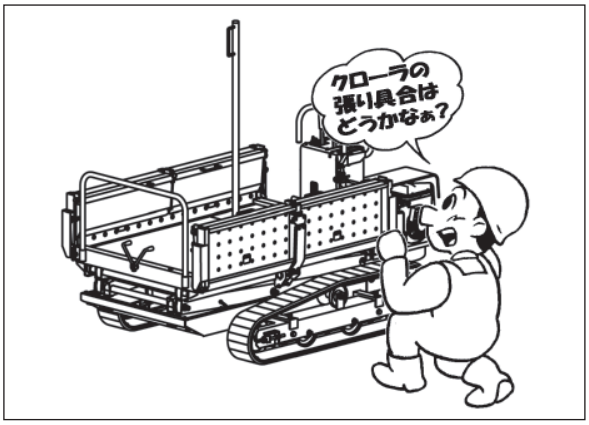
●エンジンオイルの量と汚れ、油もれ　……55



●走行ミッションオイルの油もれ　……56

●油圧オイルの量と油もれ　……56

●クローラの張り具合・磨耗度合・損傷　……61

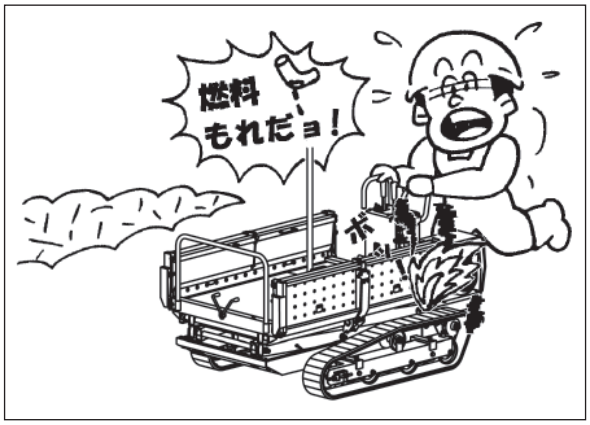


●昇降部のボルト・ナットのゆるみ　……64

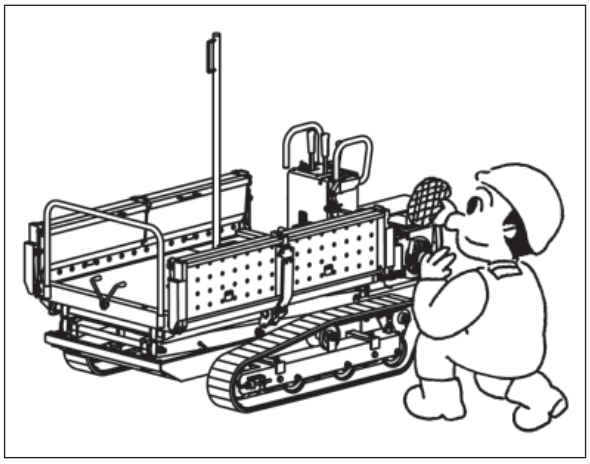
●トラックローラ取付けボルト・ナットのゆるみ　……64

●機体各部の損傷、ボルトのゆるみ　……64

●燃料の量と燃料もれ、燃料ホースの損傷
……33、57

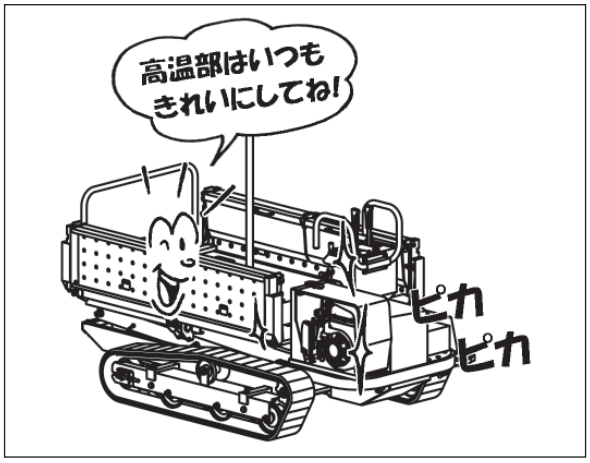


●エアクリーナの汚れ　……56



●マフラーの亀裂や腐食などの異常

●マフラーなどの高温部分のほこりやゴミ



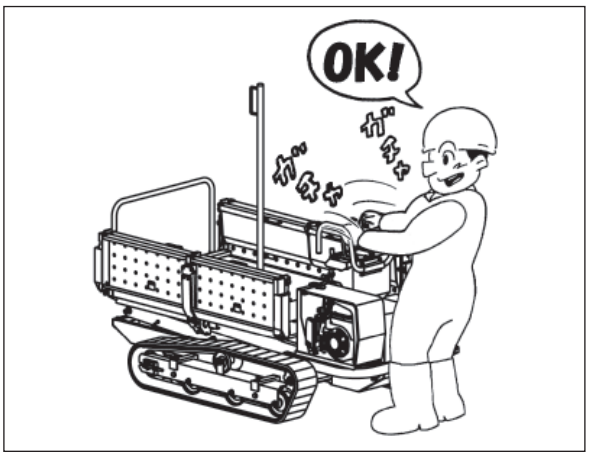
●配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ
……57

●バッテリ液の量　……59



③レバーを操作してみて

●各レバーの作動状態　……61 ～ 62

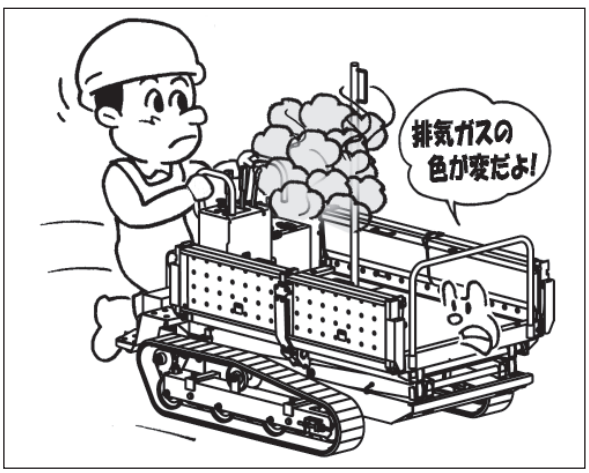


④エンジンを始動してみて

●エンジン始動後の異音　……63

●排気ガスの色　……48

●非常停止スイッチの作動状態　……42



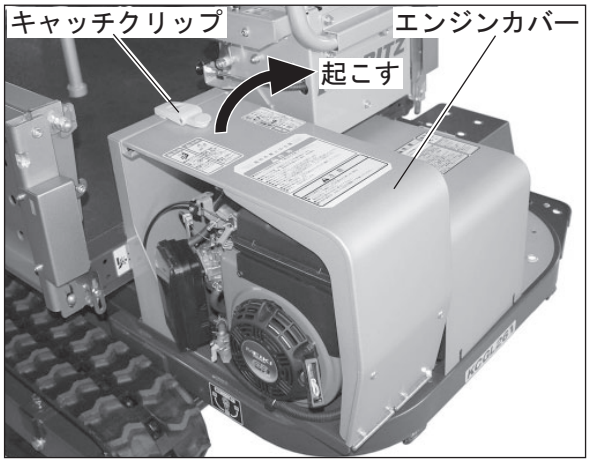
2．燃料の点検・給油のしかた

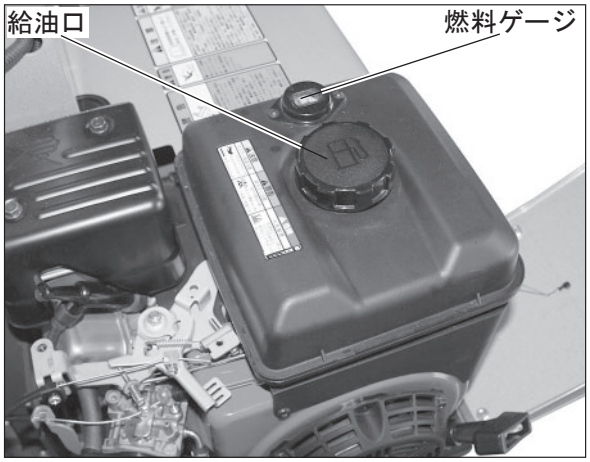
⚠危険

●燃料をあふれない程度に入れてください。機体が傾斜したときに燃料キャップから燃料があふれることがあります。万一、引火した場合、火災のおそれがあります。

点検

キャッチクリップを外して、エンジンカバーを起こして開けます。燃料タンク上面の燃料ゲージで燃料の残量を調べ、不足している場合は、上部の給油口から補給してください。





給油

給油は**「自動車用無鉛ガソリン（レギュラーガソリン）」**をあふれないように入れてください。燃料補給後は、燃料キャップを確実に締めてください。

［重要］

●ガソリンはポリタンクで保管しないでください。樹脂成分の溶解・紫外線透過により変質しやすくキャブレタ部品の穴詰まりなどのトラブルの原因となります。ガソリンを保管する場合は、ガソリン専用の鋼製燃料タンクで保管してください。

●ガソリンは常に新しいものを使ってください。購入後、１ヶ月以上経過したガソリンの使用は気化器部に粘着物が付着する原因となり、運転不調をおこすおそれがあります。

●電動式ポンプで燃料を給油しないでください。スパークにより、燃料に引火のおそれがあります。

3．エンジンの始動・停止のしかた

⚠警告

●エンジン始動時は、必ずクラッチレバーを**「切」**位置にして、周囲の安全を確認し、人や動物を近づけないでください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

●閉切った室内では、エンジンの始動および暖機運転はしないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。

●マフラーやエアクリーナカバーを外したままエンジンを運転しないでください。守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

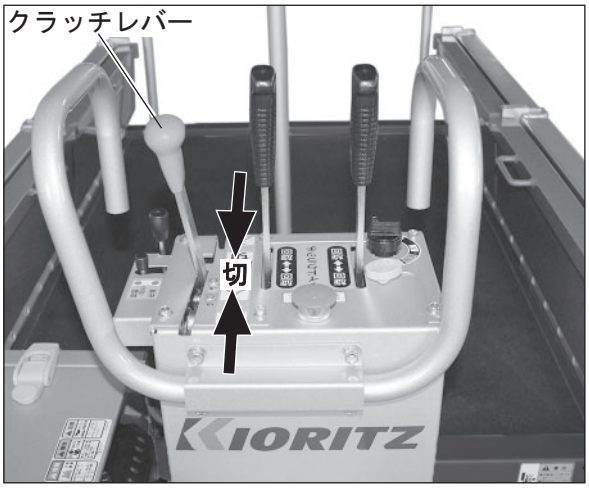
●製品を使う前と後には、必ず点検、整備をしてください。特にクラッチレバー・走行切換レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

●暖機運転中は、クラッチレバーを**「切」**位置にしてください。守らないと、製品が走りだし事故をおこすおそれがあります。

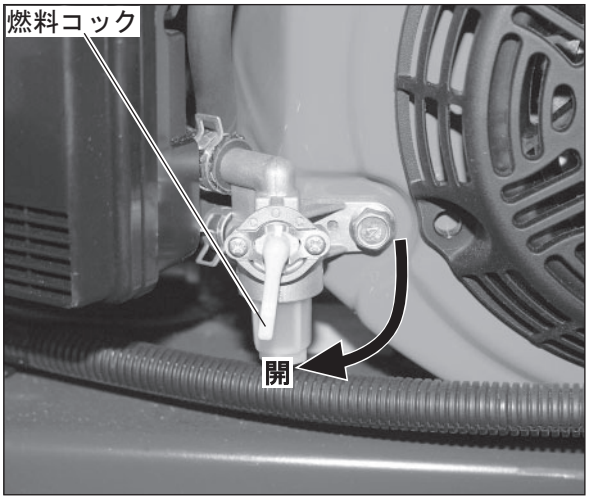
●運転中、エンジン、マフラーは高温になりますので触らないでください。また、エンジンが停止しても、すぐに手を触れないでください。エンジンやマフラーなどの高温部で火傷のおそれがあります。

エンジンの始動のしかた

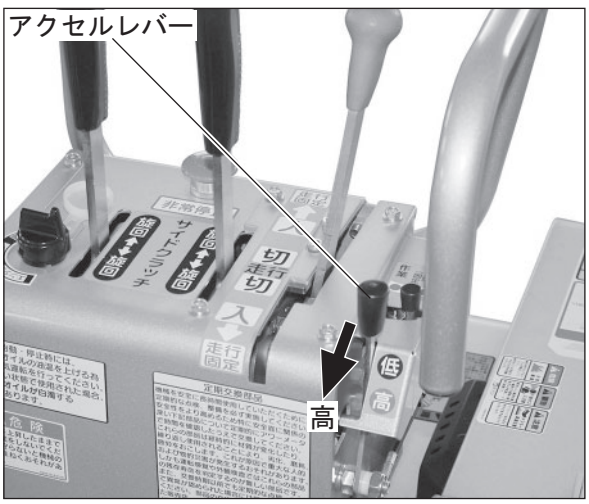
①クラッチレバーを**「切」**位置にします。



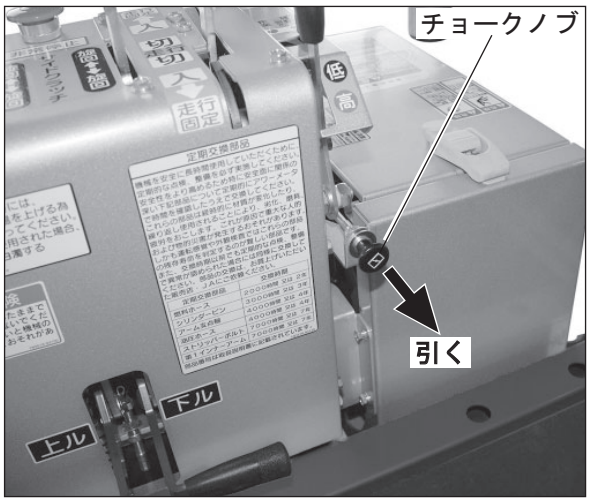
②燃料コックを**「開」**にします。



③アクセルレバーを高速側に少し移動させます。



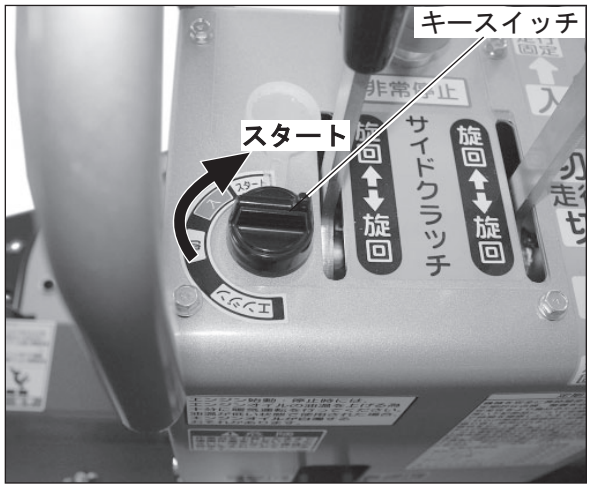
④チョークノブを引きます。



［重要］

●エンジン停止後、すぐに始動するときは、チョークノブを引かないでください。

⑤キースイッチを「スタート」位置にします。



⑥エンジンが始動したら、エンジン回転の調子を見ながら、チョークノブを徐々に戻します。最後には必ず一杯戻してください。

［重要］

●クラッチレバーが「切」位置にないと始動安全スイッチが働き、エンジンを始動することができません。クラッチレバーは確実に「切」位置にしてエンジンを始動してください。

●数回⑤の操作をしてもエンジンが始動しない場合、そのまま何回も繰返すと燃料の吸い過ぎとなりますのでチョークノブを元に戻してから再び、⑤の操作を行ってくだい。

●約５秒以上、セルモータを使ってもエンジンが始動しない場合、いったんキースイッチを切り１分間以上バッテリを休ませてから、再び始動させてください。

●エンジン始動後は、エンジンオイルの油温が十分上がるまで、暖機運転を行ってください。

●冬期など外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング（回転ムラ）をおこす場合があります。そのような場合は、アクセルレバーを高速側と低速側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

●エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「スタート」位置にしないでください。

リコイルによる始動のしかた

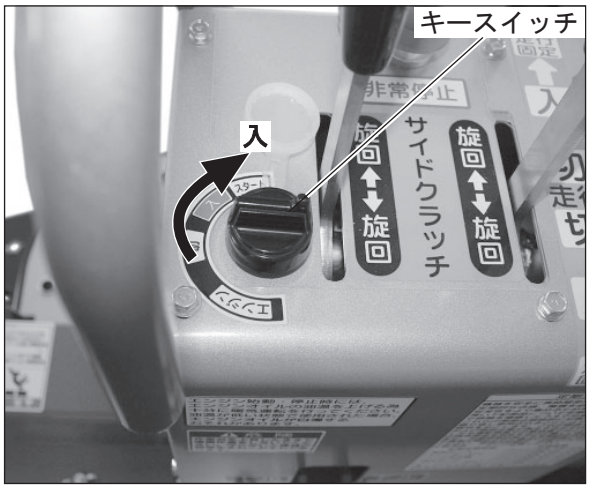
⚠警告

●リコイルでエンジンを始動する場合、クラッチレバーが**「入」**位置でもエンジンが始動しますので、必ずクラッチレバーが**「切」**位置になっていることを確認してから始動させてください。

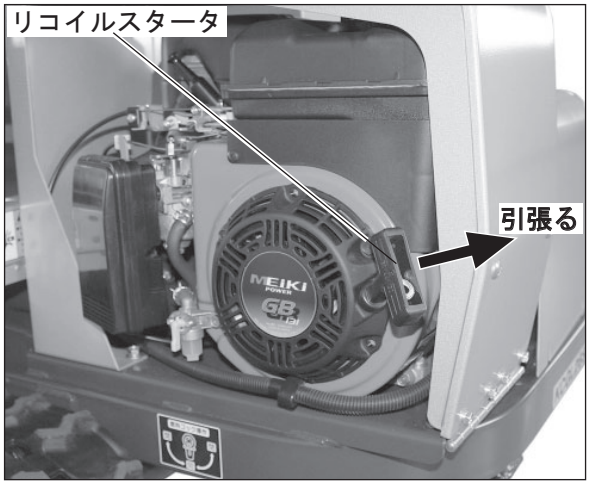
バッテリの電圧不足でセルスタートができない場合は、次の要領で始動してください。

① 34 ページの**「エンジンの始動のしかた」**の①～④までの操作をします。

②キースイッチを**「入」**位置にします。



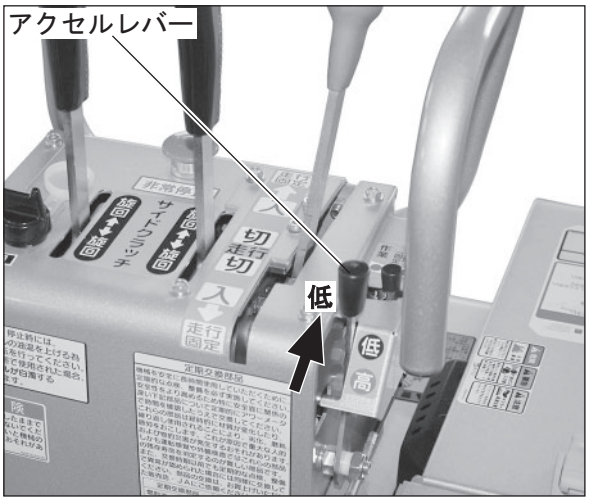
③リコイルスタータを勢いよく引張ります。



※１回で始動しない場合は、①～③を繰返してください。

エンジンの停止のしかた

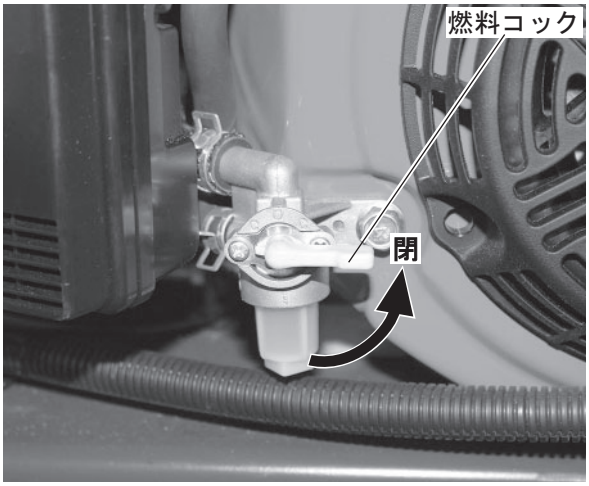
①アクセルレバーを**「低」**位置にします。



②キースイッチを**「切」**位置にし、エンジンを停止します。



③燃料コックを**「閉」**にします。



4．発進・旋回・変速・停止のしかた

⚠危険

●発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回するときは、十分にスピードを落としてください。また坂道・路肩・凸凹道やカーブの多い場所では、十分に速度を落としてください。思わぬ事故の原因となります。

●急傾斜地での斜め走行はしないでください。横転して事故をまねくおそれがあります。

●後進時は、低速にし、後方に十分注意してください。転倒などにより、けがをするおそれがあります。

●製品を利用して夜間作業は、しないでください。視界がきかず、バランスを崩し転落、転倒などの事故により、けがをするおそれがあります。

●製品から離れるときには、作業荷台を一杯下げてから離れてください。何らかの原因で作業荷台が落下し、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠警告

●発進するときは、各レバーの位置と周囲の安全を確かめて発進してください。守らないと思わぬ事故、けがをまねくおそれがあります。

●製品を使用しないときは、必ずキーを抜いて安全な場所にキーを保管してください。守らないと児童などが操作し事故をおこすおそれがあります。

●急な下り坂では、サイドクラッチレバーの操作をしないでください。思わぬ方向に製品が旋回して転落などの事故をまねくおそれがあります。

⚠注意

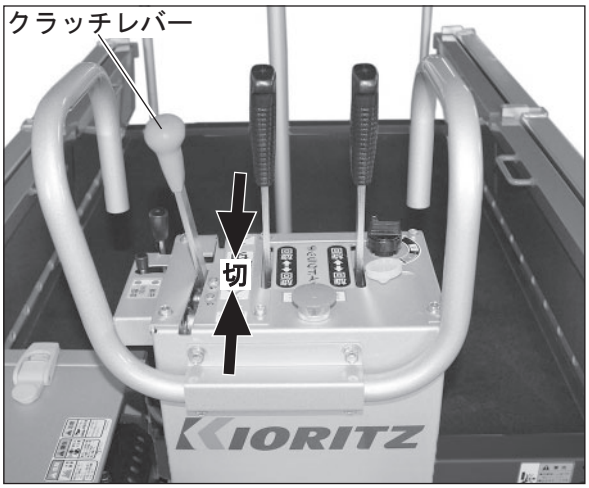
●製品は、小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。

⚠注意

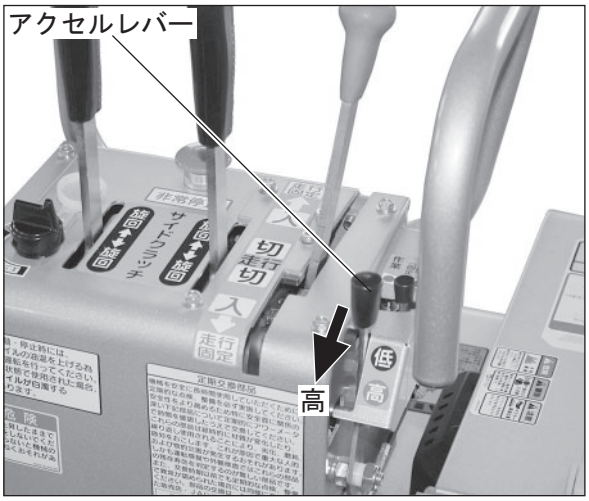
●製品から離れるときは、平坦で堅固な安定した場所に置き、必ずクラッチレバーを**「切」**位置にし、エンジンを止め、車止めをしてください。守らないと製品が動きだし、事故をおこすおそれがあります。

発進のしかた

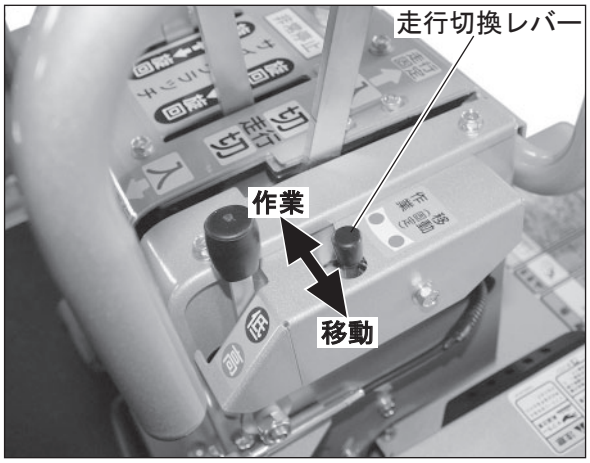
①クラッチレバーを**「切」**位置にします。



②アクセルレバーでエンジンの回転を少し上げます。

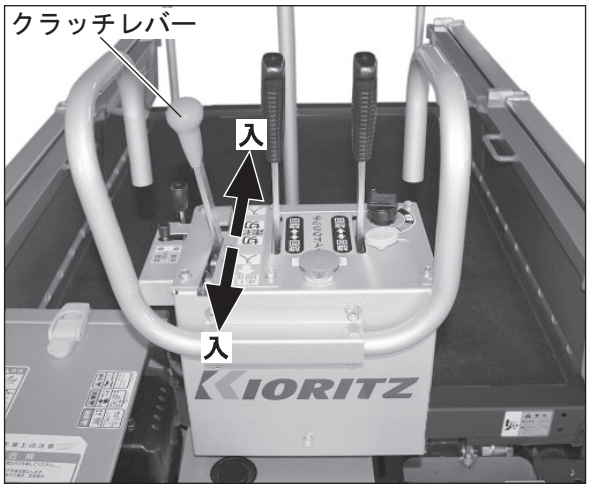


③走行切換レバーを「**作業**」または、「**移動**」の希望の位置にします。



※走行切換レバーは、作業時、またはせまい場所での走行するときに、「**作業**」位置にします。クラッチレバーから手を放すと、停止するデットマン方式になります。移動をするときは「**移動**」位置にするとクラッチレバーから手を放しても連続走行をします。必ず、作業をするときは「**作業**」位置で、移動走行の場合は「**移動**」位置にしてください。

④クラッチレバーを、希望の進行方向にゆっくり「**入**」位置にすると発進します。

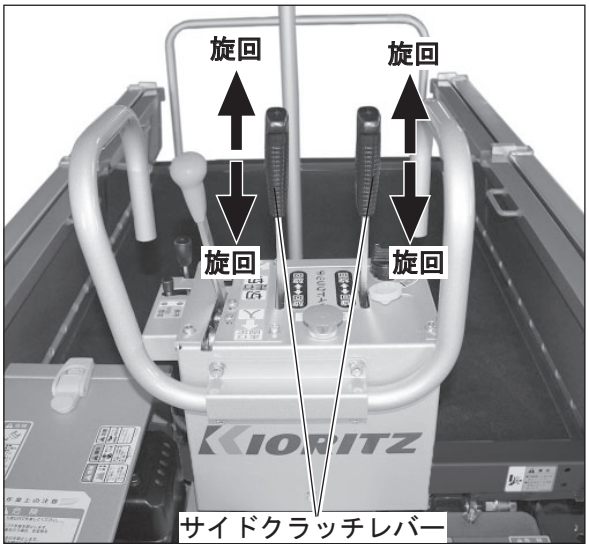


［重要］

●移動中や作業中などに緊急にエンジンを停止させたい場合は、非常停止スイッチを押すとエンジンが停止します。　（Ｐ４２参照）

旋回のしかた

安全を確認してから、旋回したい方のサイドクラッチレバーを操作してください。旋回後は、サイドクラッチレバーを戻します。



変速のしかた

⚠危険

●後進する場合、転倒しないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認してください。障害物と製品との間にはさまれてけがをするおそれがあります。

⚠警告

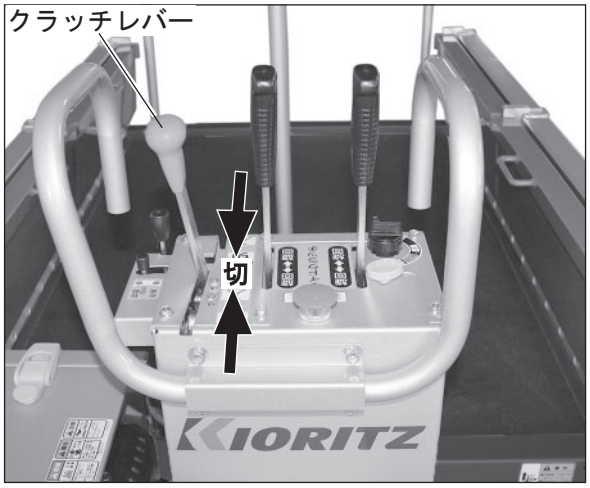
●走行切換レバーを操作するときは、必ずクラッチレバーを「**切**」位置にして操作してください。思わぬ方向に動きだし重大な傷害、製品の破損をまねくおそれがあります。

●急坂道やあゆみ板の上では、低い速度で走行し、途中での変速はしないでください。暴走して事故をおこすおそれがあります。

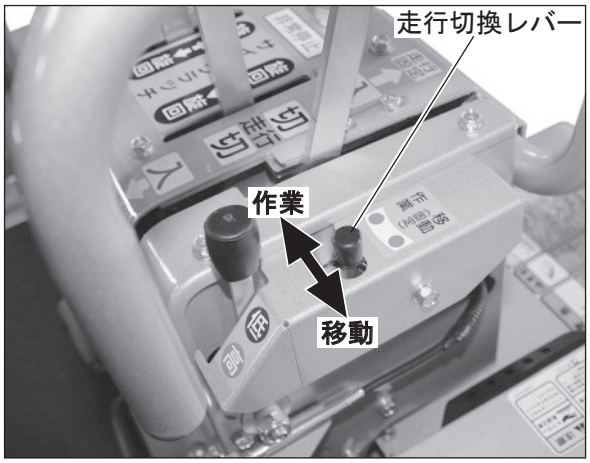
●バックする場合、アクセルレバーを「**低**」位置にし、急発進しないよう十分注意し、ゆっくり発進してください。

変速する場合は、次の要領で行ってください。

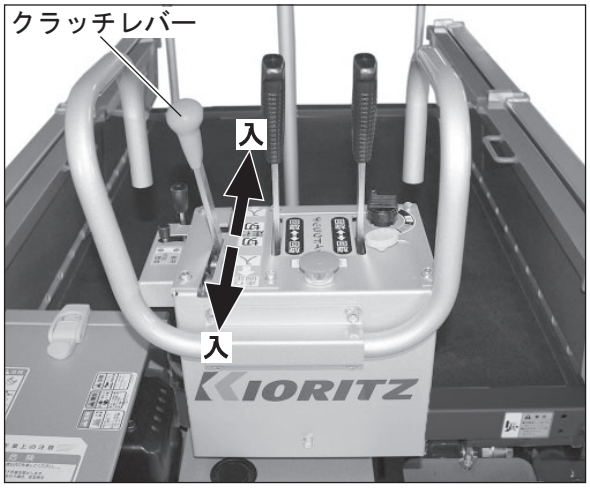
①クラッチレバーを「**切**」位置にします。



②走行切換レバーを「**作業**」位置または、「**移動**」位置にします。



③クラッチレバーを、希望の進行方向にゆっくり「**入**」位置にすると発進します。



［重要］

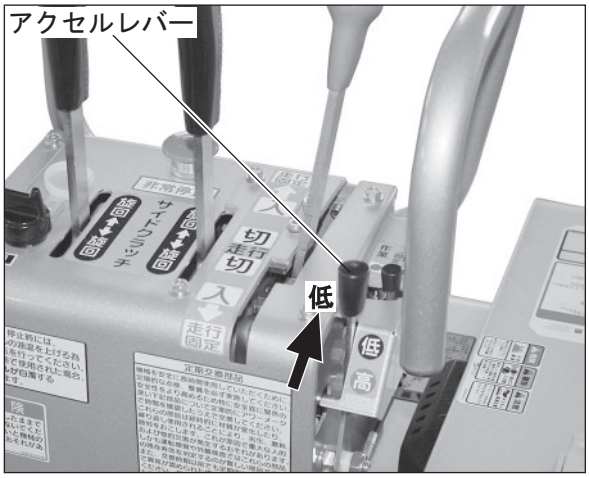
●急激なクラッチ操作はしないでください。製品の破損の原因になります。

●走行切換レバーが「作業」位置のときは、クラッチレバーから手を放すと「切」位置になります。移動走行のときは「移動」位置でクラッチレバーを操作してください。

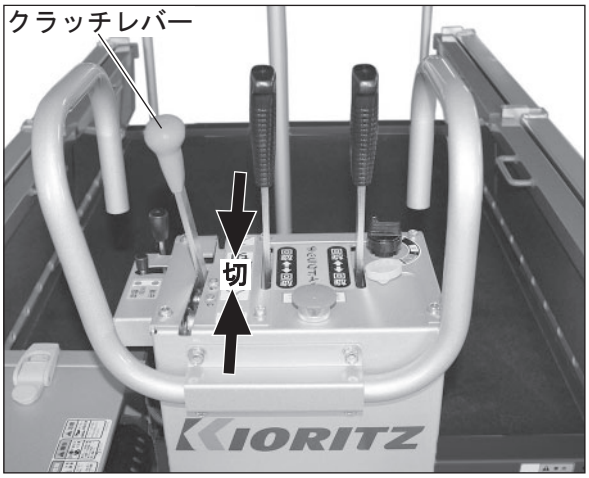
●移動中や作業中などに緊急にエンジンを停止させたい場合は、非常停止スイッチを押すとエンジンが停止します。　（Ｐ４２参照）

停止のしかた

①アクセルレバーを「**低**」位置にします。



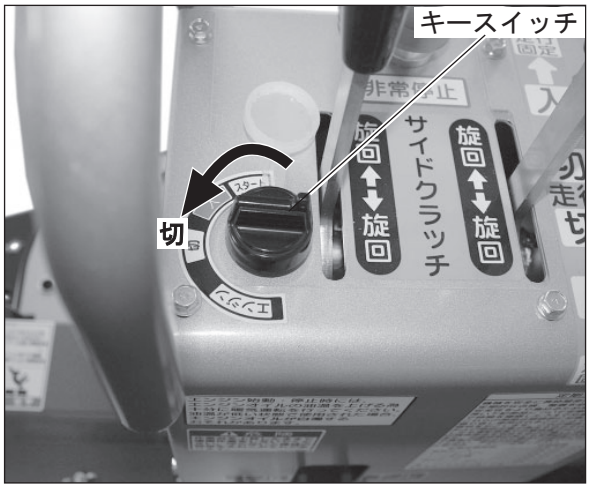
②クラッチレバーを「**切**」位置にします。



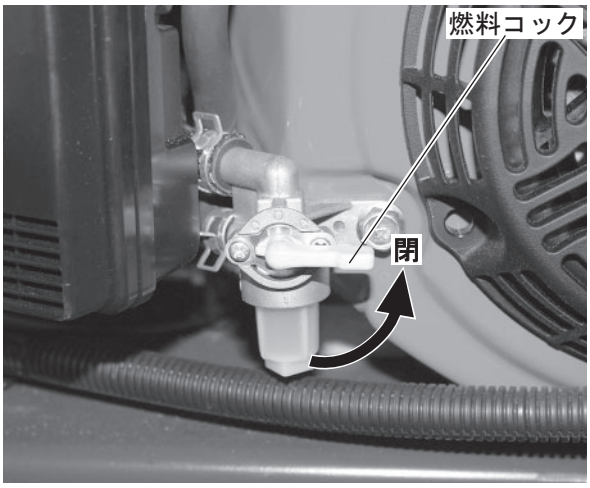
［重要］

●走行切換レバーが「**作業**」位置のときは、クラッチレバーから手を放すとレバーが戻り「**切**」位置になります。「**移動**」位置では、クラッチレバーは固定され戻りません。「**切**」位置にするときは手で「**切**」位置にしてください。

③キースイッチを「切」位置にし、エンジンを停止します。



④燃料コックを「閉」にします。



［重要］

●作業後は、必ずエンジンを最高回転で１分程度運転し、その後更に１分程度アイドリング状態で運転してください。点火プラグのカーボンの付着などによる不具合を改善します。

駐車のしかた

⚠注意

●駐車するときは、平坦で堅固な場所に必ずクラッチレバーを「切」位置にして止めてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

５．各部の操作のしかた

⚠危険

●積載物は作業荷台からはみ出さないようにしてください。荷崩れをおこし転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

●最大作業能力（作業荷台に乗る作業者の全体重を含む）以上は荷物を積まないでください。また、荷物を積んで走行するときは、必ず作業荷台を完全に下げて走行してください。転倒や製品が破損して思わぬ事故をおこすおそれがあります。

⚠警告

●積荷が高くなると製品のバランスが崩れやすく、また障害物の確認ができませんので積載物を高く積まないでください。転倒・転落により思わぬ傷害事故の原因となります。

●積載物は確実にロープを掛けて固定してください。荷崩れをおこし転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

●坂道では積荷の重量を軽くして、安全に走行してください。

●坂道では荷物の積込み、積降しはしないでください。製品の前後バランスが崩れたり、荷崩れをおこし、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

⚠注意

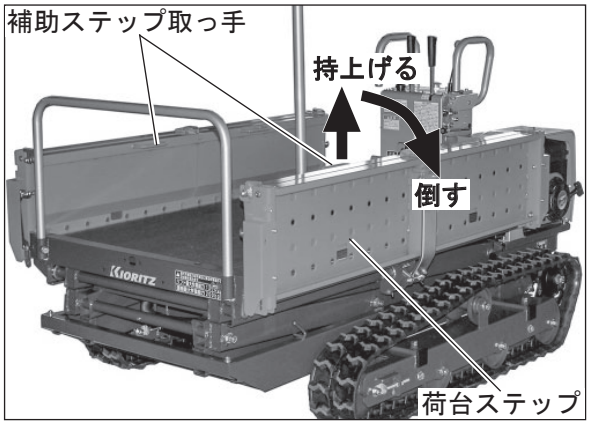
●作業荷台には人を乗せたり、乗車運転をしての移動走行はしないでください。転落などにより、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

●作業中、木や枝などにはさまれないように注意してください。

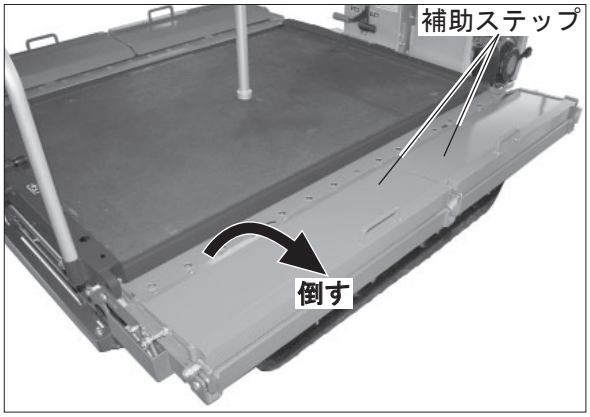
●作業をするときや、せまい場所では、走行切換レバーを「作業」位置にしてください。転倒・転落により思わぬ傷害事故の原因となります。

荷台（補助）ステップの操作のしかた

①補助ステップの取っ手を持上げながら外側に荷台ステップを倒します。

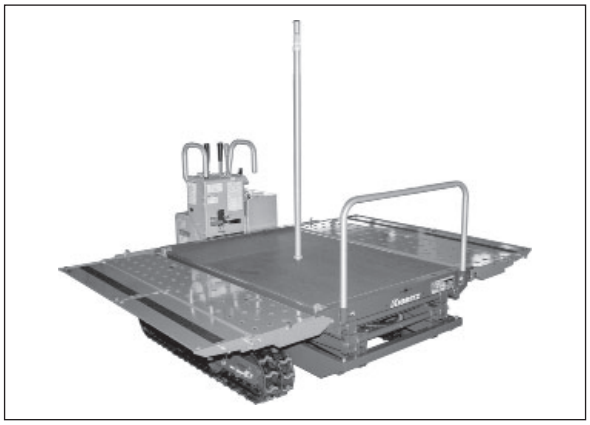


②補助ステップを開いて倒します。



［重要］

●補助ステップを閉じた状態では、段差が出来ますので作業をする場合、足元に注意してください。



※荷台（補助）ステップを元に戻すときは、逆の手順で元に戻ります。

［重要］

●荷台（補助）ステップを倒したままで、走行しないでください。

リフト操作のしかた

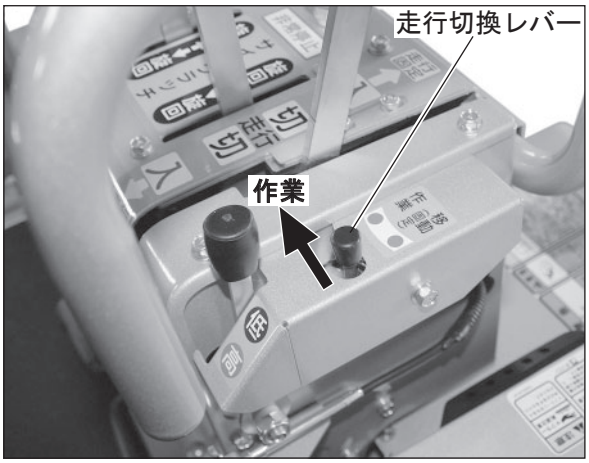
⚠危険

●作業台に乗って作業をするときは、必ず墜落制止用器具を使用してください。墜落制止用器具は、墜落制止支柱に確実にセットしてください。転落のおそれがあります。

●傾斜地での使用限度角度は５度以内にし、山側で使用してください。守らないと、転倒し重大な傷害をまねくおそれがあります。

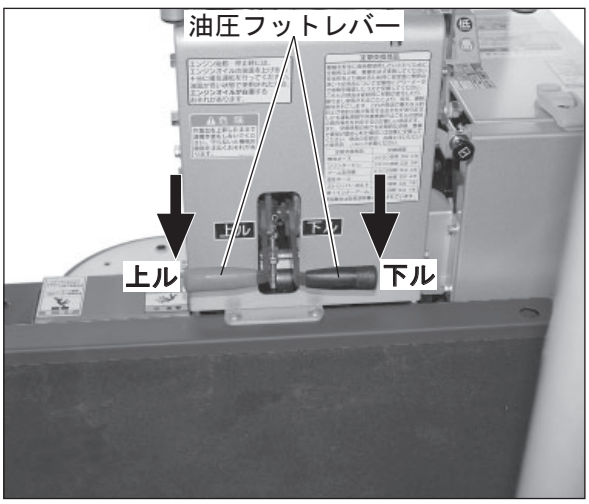
●リフトしたままでの走行はしないでください。転倒・転落により思わぬ傷害事故の原因となります。

①走行切換レバーを「**作業**」位置にします。



②油圧フットレバーを「**上ル**」の方に操作して作業荷台をリフトさせます。

③作業荷台を下げたいときは、油圧フットレバーを「**下ル**」の方に操作してください。



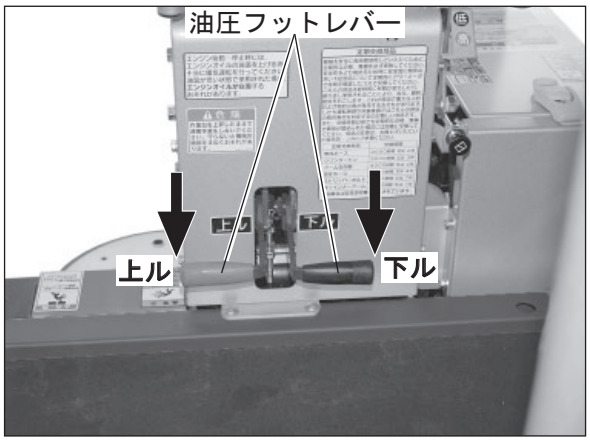


※リフト作業時は、必ず墜落制止支柱に墜落制止用器具をセットして行ってください。

※リフトの高さが１．６ｍ以上になったときに走行するとエンジンが停止します。エンジンが停止した場合は、クラッチレバーを「切」位置にして再びエンジンを始動してください。

作業荷台に乗ってのリフト操作のしかた

油圧フットレバーの「**上ル**」側を踏込むと上昇し、「**下ル**」側を踏込むと下降します



［重要］

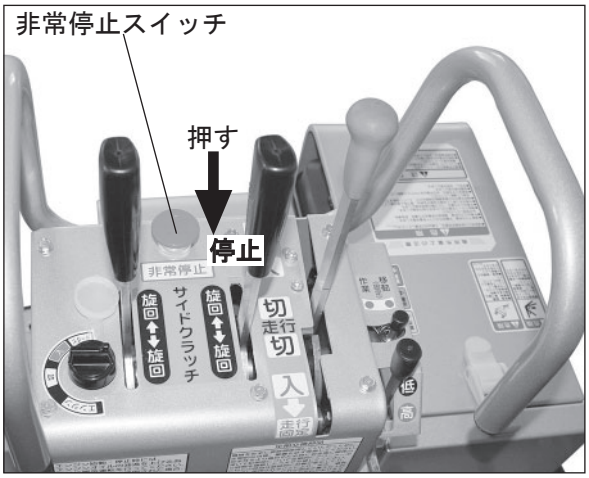
●走行中のリフト操作はしないでください。

●リフト操作をするときは、クラッチレバーを「**切**」位置にして行ってください。

非常停止スイッチの使いかた

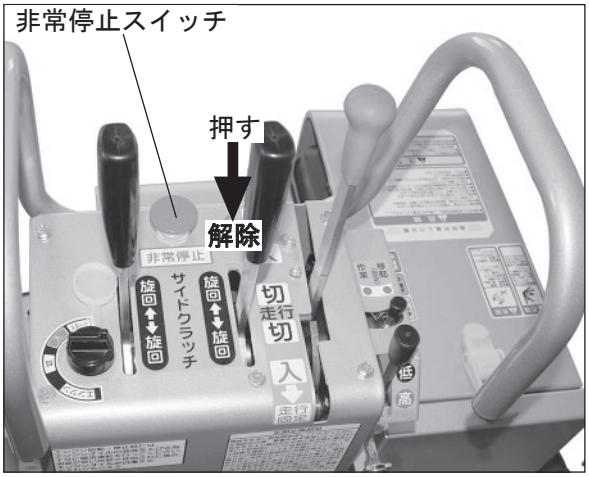
緊急停止のしかた

リフト作業中などに緊急にエンジンを停止させたい場合は、非常停止スイッチを押すとエンジンが停止します。



解除のしかた

非常停止スイッチでエンジンを停止させたあとは、安全を確認して再び非常停止スイッチを押せば解除できます。



［重要］

●非常停止スイッチでエンジンを停止させた場合は、安全を確認してからエンジンのキースイッチを「**停止**」位置にしてください。この操作を忘れるとバッテリの消耗を早めます。

●非常停止スイッチでエンジンを停止した場合でも、アワメータは作動していますので、長時間そのままにしておくとバッテリが放電します。

６．坂道での運転のしかた

⚠警告

●坂道では、適正な速度で走行してください。

●坂道では、アクセルレバーを操作しないでください。

●坂道では駐車をしないでください。守らないと製品が坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。

●坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行し、急な下り坂ではエンジンブレーキを活用してください。

●上り坂で発進する場合は、低速で、エンジン回転を落としてゆっくり発進してください。急発進すると、前側がはね上がり大変危険です。

●変速は坂を登りつめてから、アクセルレバーを操作してください。

７．樹園への出入りのしかた

⚠警告

●樹園への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときは、十分強度のあるあゆみ板を使用し、荷物は積まないで、重心を低くしてください。

●急な傾斜は、歩行運転で登る場合は**「前進」**で、下る場合は**「後進」**の低い速度でゆっくり行ってください。

［重要］

●樹園への出入りは、樹園にたいして直角に出入りしてください。

８．トラックへの積込み・積降しのしかた

⚠警告

●積込み、積降しの場所は、交通の安全が確保でき、平坦で安定した場所を選んでください。思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックはエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け、**「車止め」**をしてください。

●使用するあゆみ板は、幅、長さ、強度が十分あるスリップしないものを選び、あゆみ板が外れないように、フックをトラックの荷台にしっかり掛けてください。

●製品に乗っての運転は厳禁です。

●誘導者は、製品の直前に立たないでください。機体が不意に動いたときに思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックへの積込み、積降しは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるためのサイドクラッチレバーの操作は絶対にしないでください。守らないと転落などの事故をおこすおそれがあります。

●積込みは**「前進」**、積降しは**「後進」**で、アクセルレバーは**「低」**位置にし、エンジンブレーキを十分効かせて、ゆっくりと行ってください。守らないと転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。

●製品があゆみ板とトラックなどの継目を越えるときには、急に重心が変わりますので、十分に注意してください。転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックなどに積んで移動するときは、作業荷台は、必ず最下位置にし、荷物は積まないで、十分強度のあるロープを使用し、確実に固定し、さらに**「車止め」**をしてください。守らないと、製品の転落や、運転席への突込みによる重大な事故やけがをまねくおそれがあります。

①周囲に危険物のない、平坦な場所を選びます。

②基準に合ったあゆみ板を用意します。

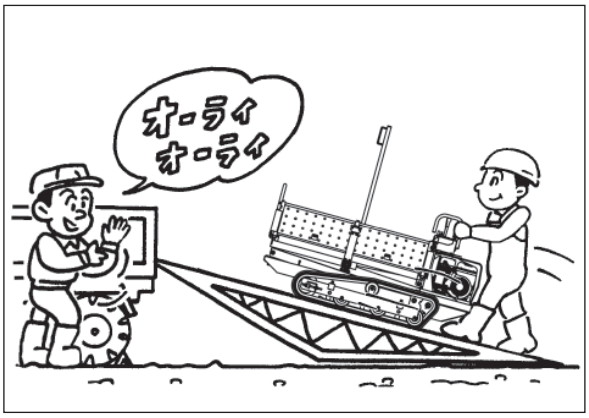
《あゆみ板の基準》

あゆみ板は、基準にあった十分強度のあるものをご使用ください。
●長さ…トラックの荷台高さの４倍以上
●幅……製品のクローラ幅の 1.5 倍以上
●強度…製品の総重量に十分耐えられるもの
（1 本当たり）
●表面…スベリ止めのあるもの
●形状…固定フックのあるもの

③あゆみ板のフックを、トラック荷台と段差のないように確実に掛けてください。

④左右のクローラがあゆみ板の中央に位置するように、製品をセットしてから積込み、積降しを行ってください。

⑤積込みの場合は**「前進」**で、積降しの場合は**「後進」**の低い速度で行ってください。



5章 作業後の手入れについて

⚠危険

●燃料を抜くときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。エンジンを止め、エンジン、マフラーなどの高温部が十分冷えてから必ず燃料受けを用意し、燃料をこぼさないようにしてください。燃料などに引火し火災のおそれがあります。

●シートを掛ける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラーが十分冷えたことを確認してから掛けてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

●お手入れは、平坦な安定した場所で行ってください。守らないと製品が転倒して、思わぬけがをするおそれがあります。

●格納時は平坦で安定した場所に置いてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は必ず「車止め」をしてください。製品が自然に動いて事故になります。

⚠注意

●お手入れは、エンジンを停止させて行ってください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部分が十分冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。

●近くに燃えやすいものがあれば取除いてください。火災の原因になります。

1．作業後の手入れ

その日の内に水洗いをし、水洗い後はよく水分をふき取って、各回転・摺動部に油をたっぷり差してください。

⚠警告

●エンジン、マフラーなどのワラくずや草などは取除いてください。そのまま運転しますと、火災の原因になります。また、マフラーの亀裂や腐食などの異常がないかも点検してください。

［重要］

●水洗いをするときは、エアクリーナの吸気口に水が入らないようにしてください。

●電装品には水を掛けないようにしてください。故障の原因となります。

２．長期間使用しない場合の手入れ

⚠注意

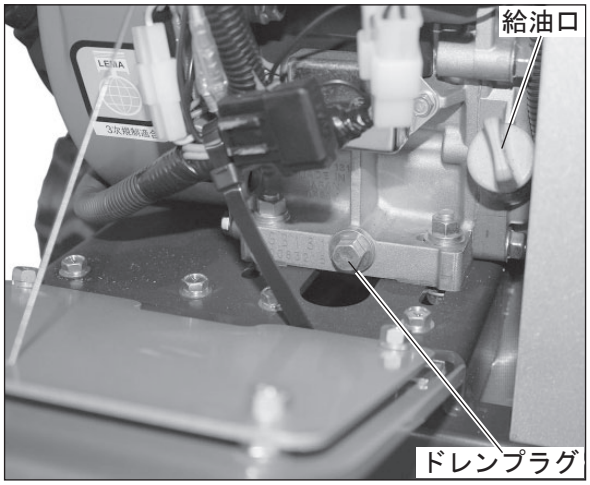
●格納する場合は、クラッチレバーを**「切」**位置にしてください。使用時にクラッチが切れなくなり、事故をおこすおそれがあります。

［重要］

●オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、お住まいの自治体の指導に従ってください。

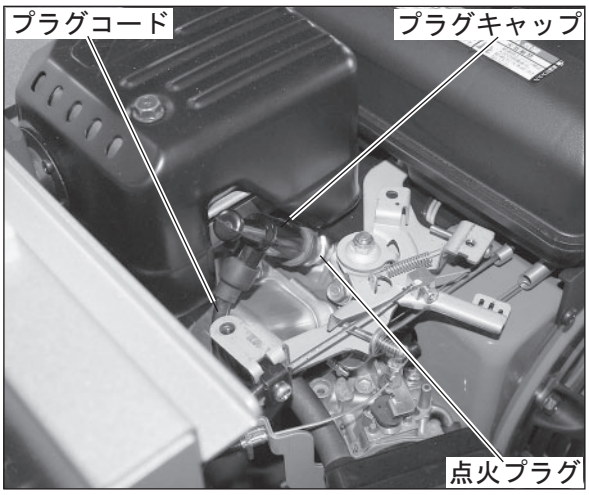
①エンジンを低速で運転（約５分間）し、停止させます。

②エンジンが温かいうちにエンジンオイルを抜出して､新油と交換してください。（Ｐ 54**「3. 各部オイルの点検・交換のしかた」**参照）

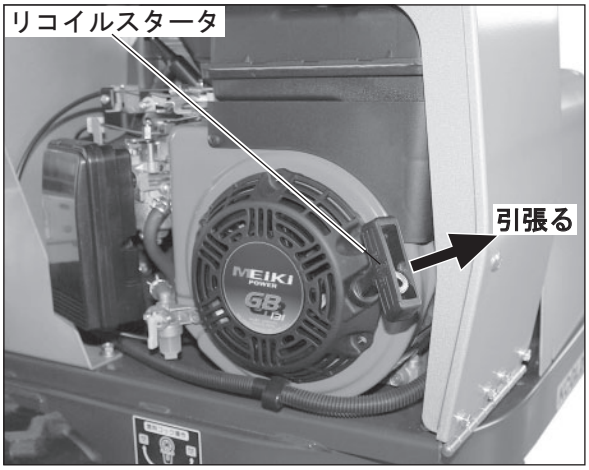


※エンジンが熱い間は作業しないでください。

③点火プラグを外し、点火プラグの穴からエンジンオイルを 10 cc位入れます。



④リコイルスタータを２～３回引きます。



⑤再び点火プラグを取付けて、リコイルスタータを軽く引き、重たくなった所（圧縮のある）で止めておきます。(エンジンを始動させてはいけません。)

※圧縮のある位置では、吸排気弁が閉じており、湿気によるエンジン内部の発錆を防ぎます。

⑥プラグコード、プラグキャップは点火プラグに確実に差込んでください。

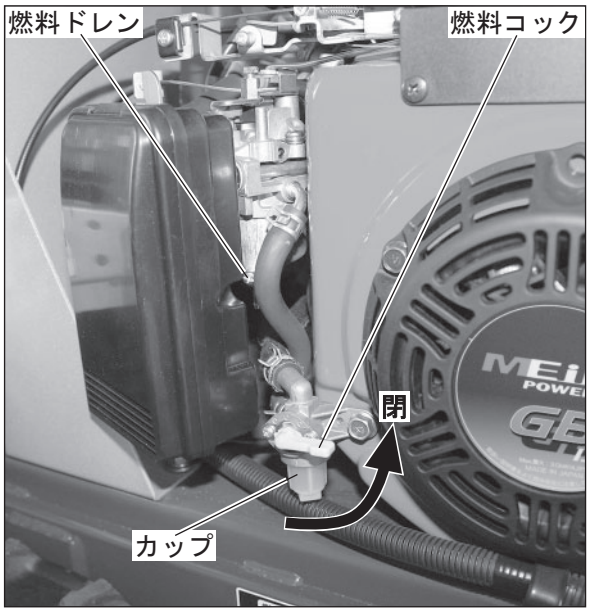
⑦燃料タンク・キャブレタ・燃料こし器の中の燃料は抜取っておいてください。

燃料抜きの要領

燃料受け皿を用意して燃料をこぼさないようにしてください。

①燃料コックを**「閉」**にします。

②燃料こし器のカップを外し、燃料こし器の燃料を抜きます。（Ｐ 56**「５．燃料こし器の掃除のしかた」**参照）



※燃料ドレンをゆるめて抜取ります。

③燃料こし器の下に燃料受けを置き、燃料コックを**「開」**にし、燃料タンク内の燃料を全て抜きます。

④燃料コックを**「閉」**にし、カップを元の位置に取付けてください。

⑤キャブレタ内の燃料は、キャブレタ下部の燃料ドレンをゆるめて抜取ってください。
(燃料が出てこなくなるまで、容器にこぼさないように受けてください)

［重要］

●ガソリンは１ヶ月以上放置すると「気化」・「酸化」してエンジンの始動不良や運転不調をひきおこします。製品を保管する場合は、必ず①～⑤の要領で燃料タンク・燃料こし器・キャブレタ内のガソリンを抜いてください。

エンジン以外の手入れ

①クローラに付着した泥や異物などは取除き、クローラの下には板を敷いてから格納してください。

②外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。

③乾燥した風通しの良い所で、作業荷台は、降ろした状態にしてください。

④クラッチレバーはＶベルトの変形を防止するため、**「切」**位置にしてください。

⑤バッテリは完全充電し、製品から取出し、風通しのよい冷暗所に保管してください。

⑥キースイッチには、キャップをしてください。

［重要］

●バッテリは使わなくても自然放電します。１ヶ月に１度は充電器で完全充電してください。
（Ｐ 59 参照）

●寒冷時に凍結して発進不能となった場合は、凍結箇所を水、または湯などで溶かすか、自然に溶けるまで待ってクラッチ操作をしてください。

⚠危険

●燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。

●エンジンの回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。

●作業荷台を上げて点検、整備をするときは、荷台落下防止金具で作業荷台を固定してから行ってください。何らかの原因で作業荷台が落下し、傷害事故をおこすことがあります。

⚠警告

●点検、整備は交通の危険がなく、製品が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、クローラに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

●１年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料ホースは２年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。守らないと、整備不良による事故や製品の故障をまねくおそれがあります。

●点検、整備、修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部が十分冷えてから行ってください。火傷をするおそれがあります。

●点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてから作動確認をしてください。衣類などが巻込まれて危険です。

●部品の交換、および草・わらくずなどのゴミを取るときは、エンジンが十分に冷えてから行ってください。

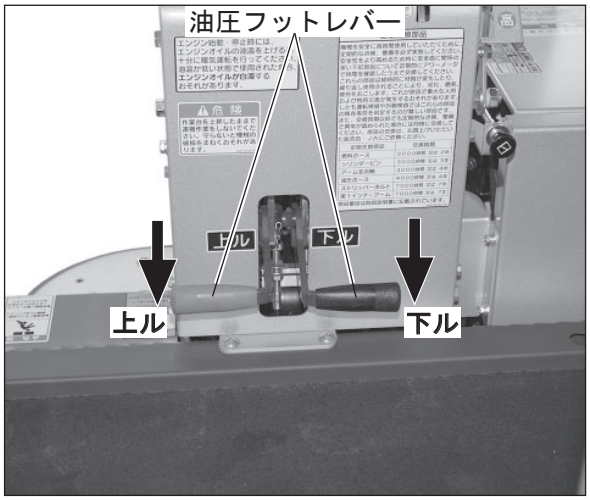
●エンジン始動時は、有色の排気ガスがでますが、チョークを戻すと通常は無色です。有色の排気ガスが負荷をかけなくても出るときは、エアクリーナの詰まり、エンジンオイルの量、質の悪い燃料などが考えられますので、販売店・ＪＡに相談してください。

定期点検や整備は、農閑期に行いますと農繁期に製品の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。製品の整備不良による事故を未然に防止するために、１年毎に販売店・ＪＡで定期点検、整備を受け、各部の安全を確認してください。特に燃料ホース類は２年毎に交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に製品を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

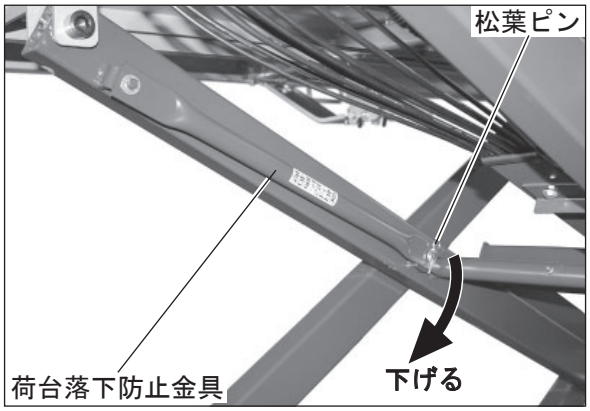
荷台落下防止金具のセットのしかた

作業荷台を上げて点検、整備をするときは、荷台落下防止金具をセットしてください。

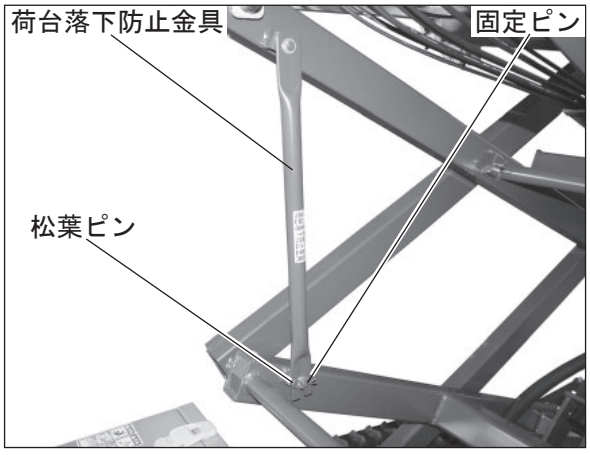
①油圧フットレバーを「**上ル**」の方に操作して作業荷台をリフトさせます。



②荷台落下防止金具の松葉ピンを外して荷台落下防止金具を下げます。



③荷台落下防止金具を固定ピンにセットしてピンを取付ます。





［重要］

●作業荷台を下げるときは、必ず荷台落下防止金具を元の位置に戻してから作業荷台を下げてください。

１．定期点検一覧表

点検・調整箇所	規定量	内容	点検・交換時期	参照ページ
エンジンオイル	０．５L	４サイクルガソリンエンジン用 オイルＳＥ級以上 ･･･ＳＡＥ10Ｗ－３０ 交換	作業前点検 １回目：２５時間目 ２回目以降： ５０時間毎	５３
走行ミッション オイル	０．６L	ギヤオイル９０番 交換	１回目：５０時間目 ２回目以降： １００時間毎	５４
油圧オイル	１．６L	エンジンオイルＳＥ級以上 ･･･ＳＡＥ10Ｗ－３０ 補給、交換	作業前に点検	５４
エアクリーナ		灯油で洗浄または交換	作業前点検	５６
燃料こし器		洗浄	５０時間毎	５６
キャブレタ		燃料のもれ・にじみの点検	作業前点検	５７
燃料ホース		交換、結合部の点検	２年毎	５７
電気配線		被覆のはがれや傷を点検	毎年点検	５７
バッテリ	液面レベル内 に蒸留水補給	バッテリ液が 「上限（UPPER LEVEL)」、 「下限（LOWER LEVEL)」 の間にあるか確認	作業前に点検	５９
点火プラグ	０．７㎜	清掃、電極すきまの調整	５０時間毎	５８
クローラ	１０～１５㎜	たわみ量の調整	作業前に点検	６０
サイドクラッチ レバー		旋回できるか確認		６１
ブレーキ	３～５㎜	クラッチレバーの遊び量		６２
クラッチレバー		ベルトがスリップして いないか確認		６２
前・後進切換	３～５㎜	クラッチレバーの遊び量		６２
昇降部 ボルト・ナット		増締め		６３
トラッククローラ 取付ボルト		増締め		６３
エンジン取付 ボルト・ナット		増締め		６３

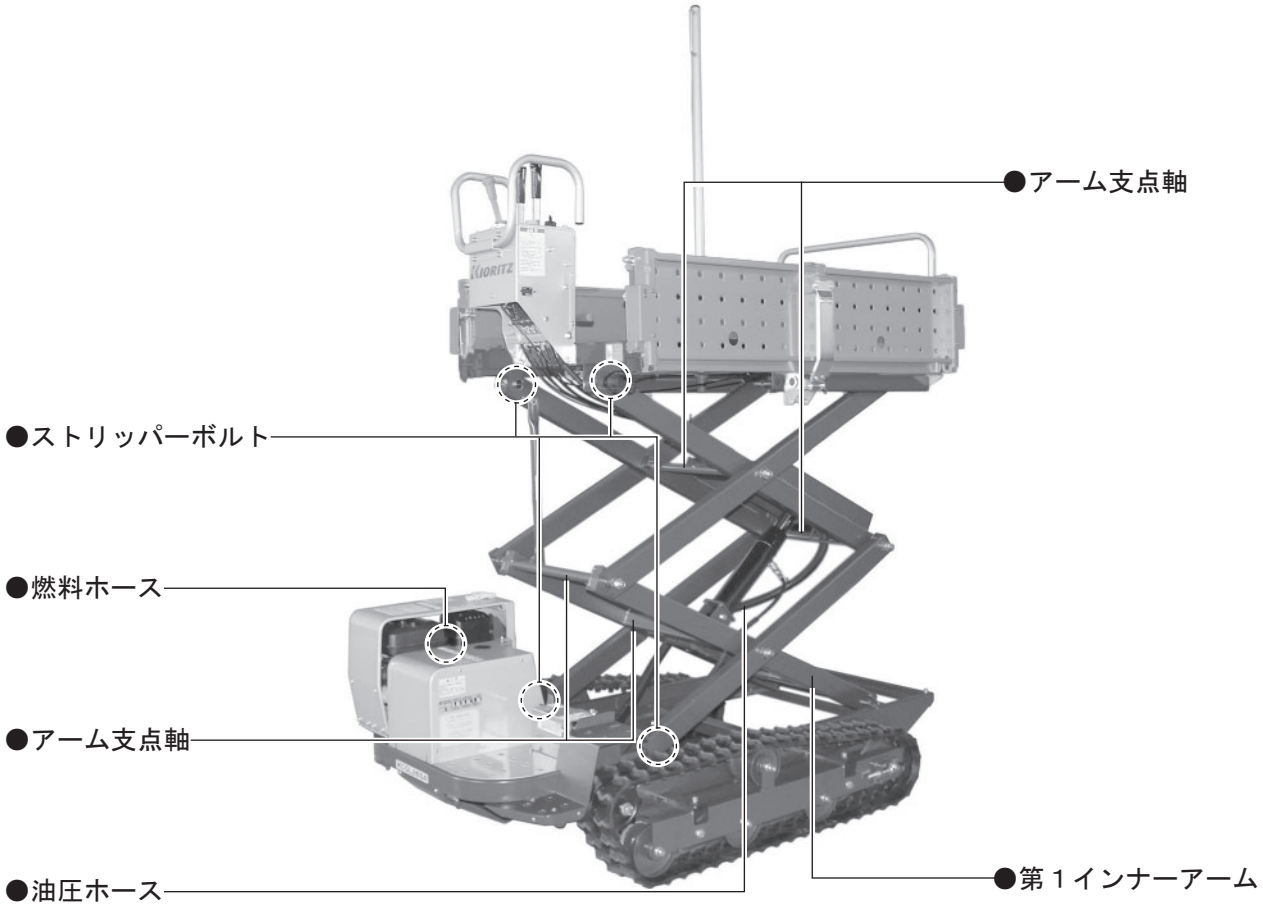
２．定期交換部品

製品を安全に、長時間使用していただくために、定期的な点検、整備を必ず実施してください。（Ｐ５０参照）

●安全性をより高めるために、特に安全面に関係の深い下記部品について、定期的にアワメータで時間を確認したうえで交換してください。これらの部品は経時的に材質が変化したり、繰返し使用されることにより、劣化、摩耗、疲労をおこします。これが原因で重大な人的および物的災害が発生するおそれがあります。しかも運転感覚や外観検査ではこれらの部品の残存寿命を判定するのが難しい部品です。また、交換時期以前でも定期的な点検、整備で異常が認められた場合には同様に交換してください。部品の交換は、お買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

定期交換部品

部品名	部品番号	交換時期	参照ページ
燃料ホース（燃料タンク～燃料こし器）	Ｐ０５１Ｙ０８Ｘ３７０	2000 時間（または２年）	５７
燃料ホース（燃料こし器～キャブレタ）	ＫＦ７００５８ＡＡ	2000 時間（または２年）	５７
アーム支点軸	１Ｎ３５１９－６８２７０	4000 時間（または４年）	６３
油圧ホース	１Ｎ３５１９－６１０００	4000 時間（または４年）	５５
ストリッパーボルト	１Ｎ３５１９－６８３００	7000 時間（または７年）	６３
第１インナーアーム	１Ｎ３５１９－６８０７０	7000 時間（または７年）	６３



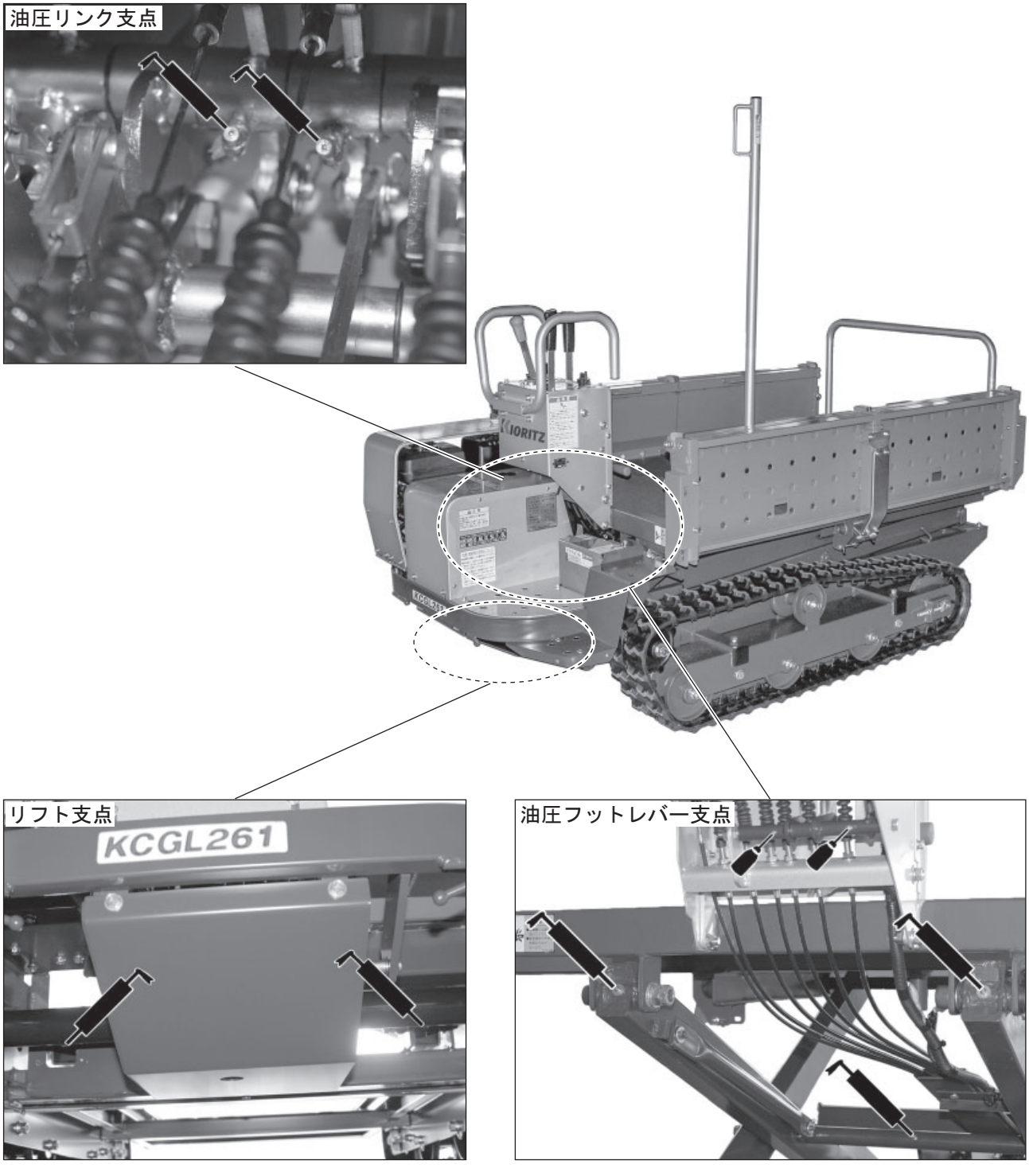
３．各部の注油・グリスアップのしかた

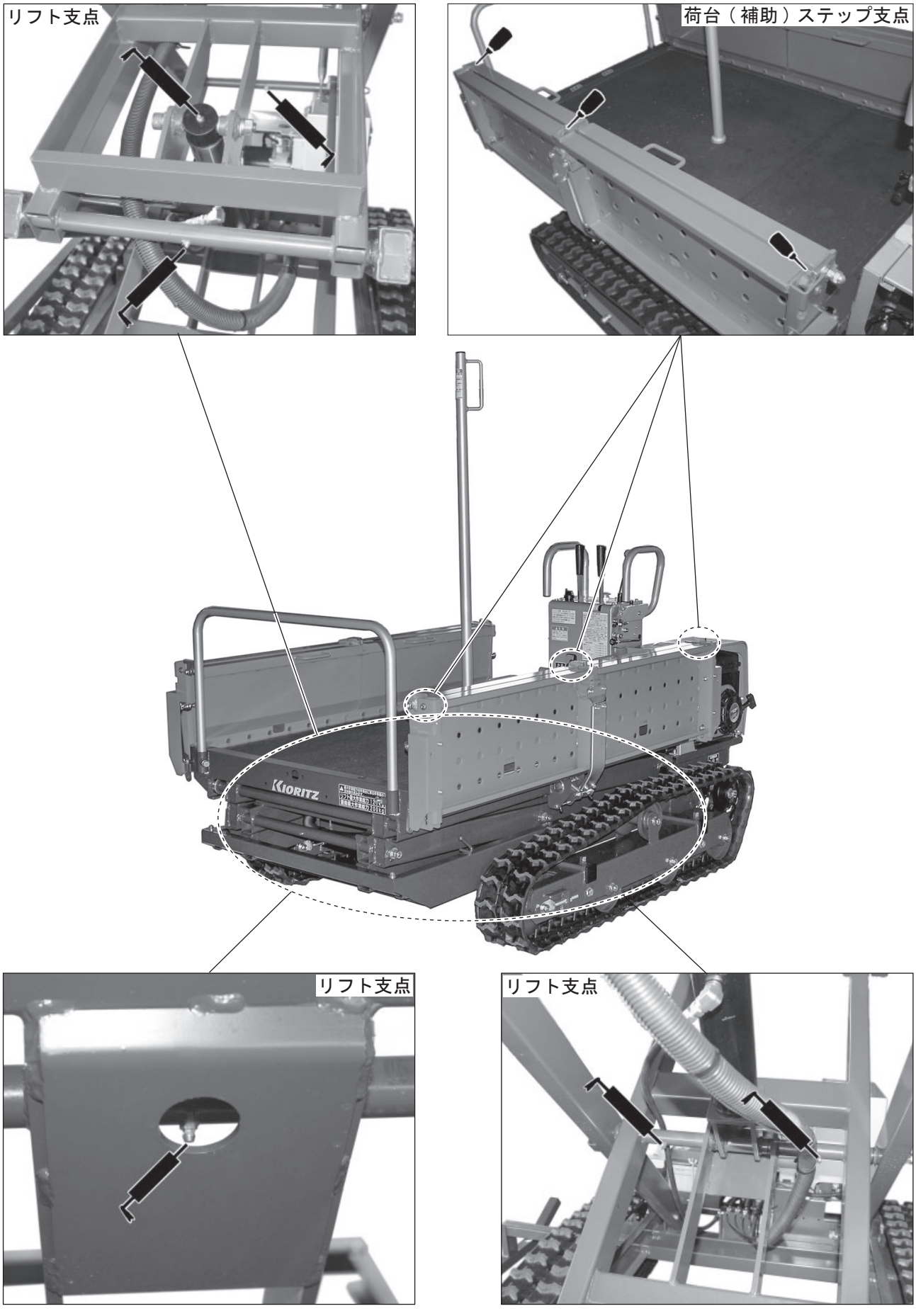
⚠注意

●記載されている以外にも、摩擦部や摺動部には必ず注油・グリスアップをしてください。作動不良をまねいて物損・傷害をおこすおそれがあります。

●定期的に油さし・グリスポンプで確実に注油・グリスアップをしてください。

〈凡例〉 注油位置・ グリスアップ位置




リフト支点
荷台（補助）ステップ支点
KIORITZ
リフト支点
リフト支点

４．各部オイルの点検・交換のしかた

古くなったオイルは、製品の性能を落とすだけでなく、故障の原因にもなります。定期的に古いオイルを抜取り、新しいオイルを規定量給油してください。

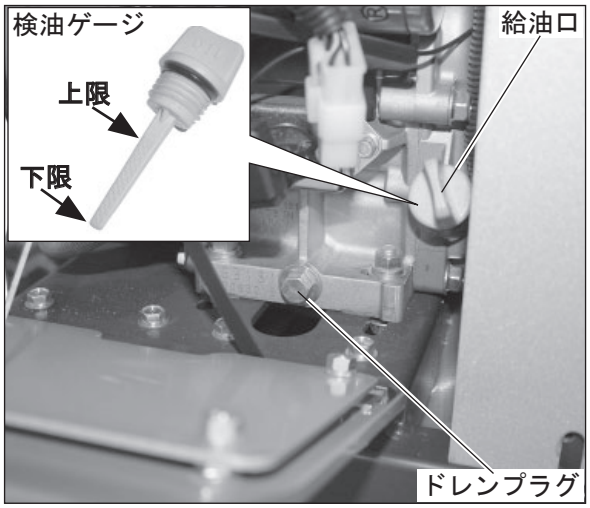
［重要］

●オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、お住まいの自治体の指導に従ってください。

エンジンオイル

点検

製品を水平な場所に置きます。エンジンカバーを開けて、給油口の蓋を外し、検油ゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差込み、再び抜いて検油ゲージの「上限」と「下限」の間にオイルがあるか調べます。



交換

ドレンプラグを外し、給油口の蓋をエンジンオイルが噴き出さないように、少しずつ加減をしながらゆるめ、汚れたオイルを流し出し、こぼさないように容器に受けてください。給油は、給油口より検油ゲージの規定量（0.5L）まで入れてください。

※エンジンが温かいうちに抜くと容易に抜くことができます。

⚠注意

●エンジンが熱いうちは行わないでください。熱いオイルが体にかかると火傷をするおそれがあります。

［重要］

●オイルの量はエンジンを停止して調べてください。

●給油するときは、製品を必ず水平にして行ってください。

●エンジンオイルを抜くときに、給油口の蓋を外すとエンジンオイルが噴き出し衣服などを汚すおそれがあります。

●給油をするオイルは、必ず規定のオイルを使用してください。

●オイルの点検・交換作業後はドレンプラグや給油口の蓋を確実に締付けてください。

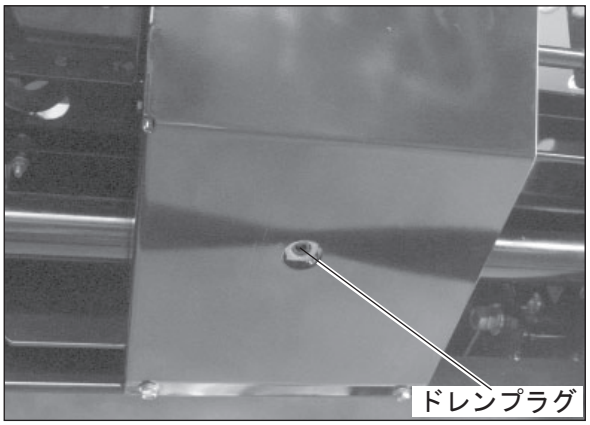
走行ミッションオイル

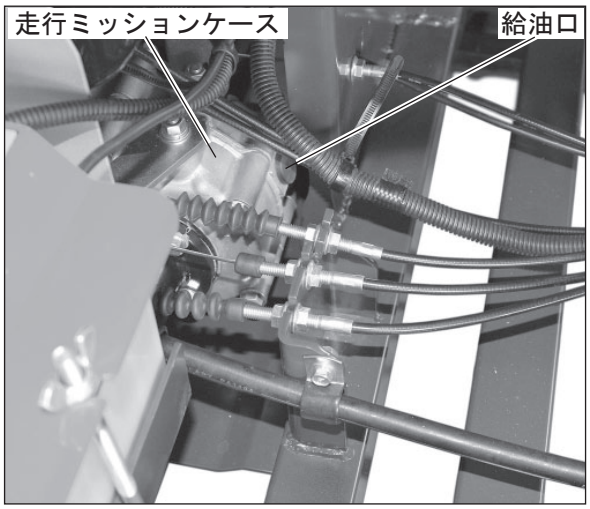
点検

油もれのないことを調べてください。

交換

走行ミッションケース下部にあるドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出し、こぼさないように容器に受けてください。給油は、規定量（0.6L）入れてください。





［重要］

●廃油受け皿に排出したオイル内に鉄粉などが混入している場合は、ギヤの磨耗などミッションの破損の前兆であり、走行ミッションの分解チェックを要します。お買上げいただいた販売店、ＪＡにご相談ください。

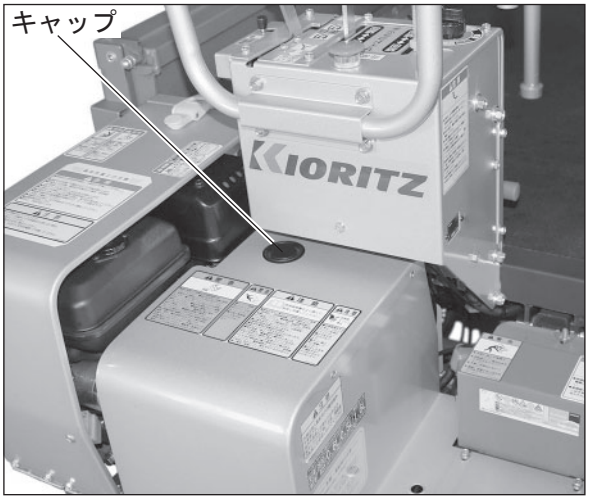
油圧オイル

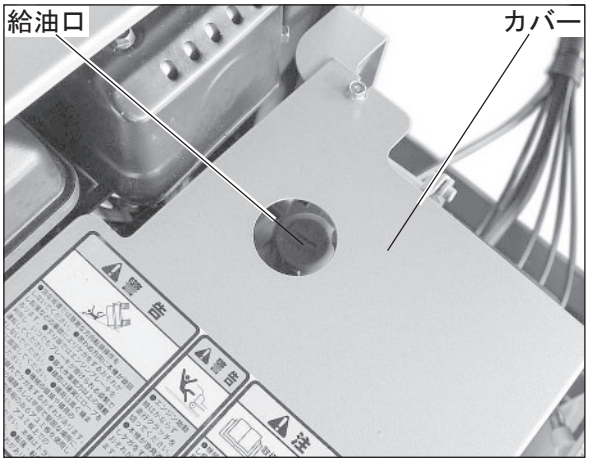
点検

油もれのないことを確認してください。

交換

油圧パッケージのオイルタンクを外し、汚れたオイルを流し出します。給油はキャップを外して給油口より、規定量（1.6L）入れてください。





［重要］

●油もれなどしているときは、販売店、ＪＡで点検、整備を受けてください。

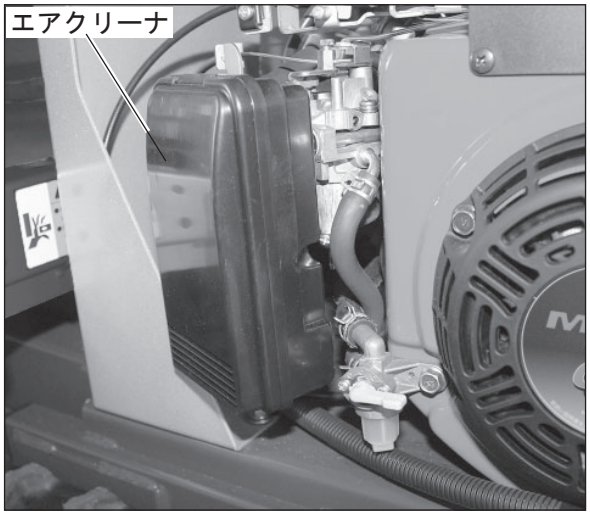
５．エアクリーナの掃除・交換のしかた

⚠警告

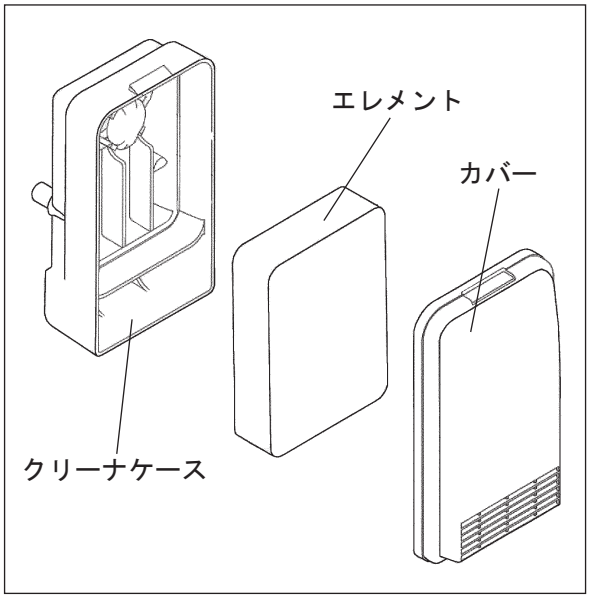
●エアクリーナのカバーを外したまま始動をしないでください。守らないと逆火により、火災が発生するおそれがあります。

エアクリーナは、いつもエンジンを快適にする装置です。汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

①エアクリーナのカバーを取外します。



②中のエレメントを取外して、灯油で洗ってエンジンオイルに浸します。



③エレメントを硬くしぼって取付け、カバーを元通りに確実に取付けてください。

６．燃料こし器の掃除のしかた

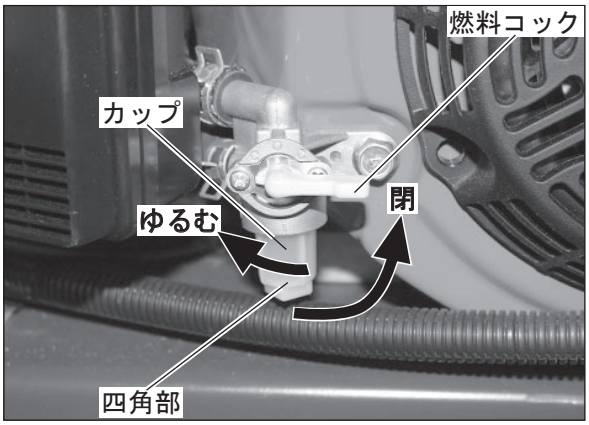
⚠危険

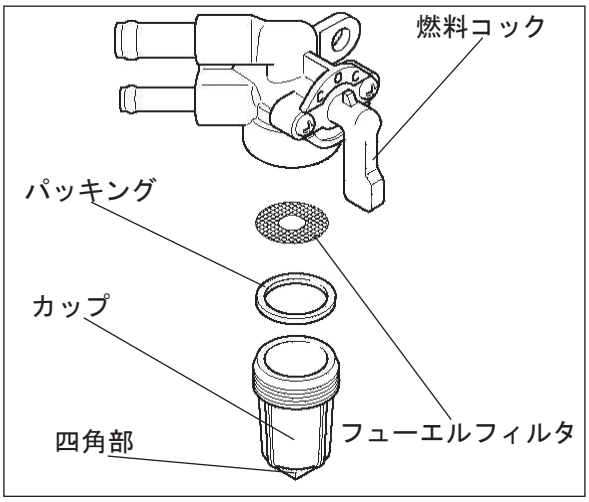
●燃料コックが**「開」**になったままで燃料こし器を外しますと、燃料タンク内の燃料が流れ出ます。万一、引火した場合、火災のおそれがありますので、必ず燃料コックを**「閉」**にしてください。

燃料の中に入ったゴミや水が、燃料こし器のカップに沈殿したときは、カップを外してゴミや水を抜取ってください。

①燃料コックを**「閉」**にします。

②カップ下部の四角部を 10 ㎜のスパナなどでゆるめて外します。





③カップのゴミや水を取除き、フューエルフィルタの目詰まりを掃除します。

④カップを元に戻して確実に取付けます。

［重要］

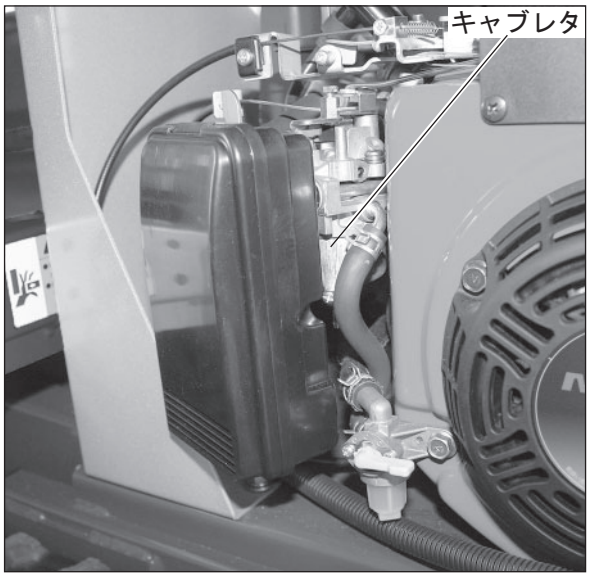
●ゴミや水の混入が多い場合は、燃料を抜取り、新しい燃料と交換してください。

７．キャブレタの点検のしかた

キャブレタに燃料もれ・にじみがあった場合は、お買い上げいただいた販売店、またはＪＡで点検を受けてください。

［重要］

●燃料ホース、ゴムパッキンなどは長年の保管により劣化します。ご使用のない場合も、使用前には必ず点検をしてください。



８．燃料ホース・電気配線の点検のしかた

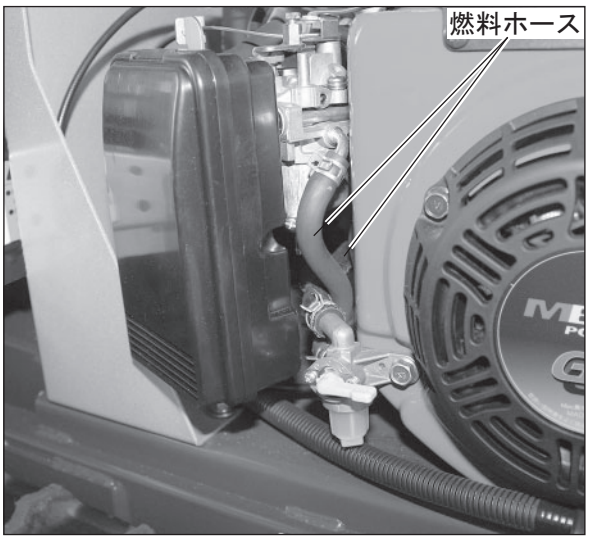
⚠危険

●燃料ホースの老化や傷による燃料もれがあると、火災の原因になります。作業前後に点検し、もれがあれば交換してください。

⚠注意

●配線コードに付着しているわらくずやゴミは、作業前後にきれいに取除いてください。守らないと、火災の原因となることがあります。

燃料ホースの傷や接続部の締付けバンドのゆるみ、燃料もれがないか確認してください。また、電気配線コードが他の部品に接触していないか点検します。燃料ホースや電気配線コードが傷んでいる場合は、販売店、またはＪＡで修理してください。
燃料ホースは傷んでいなくても２年毎に交換するようにしてください。
電気配線は１年毎に定期点検を受けてください。



９．点火プラグの点検のしかた

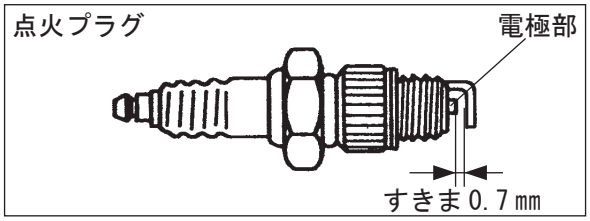
⚠注意

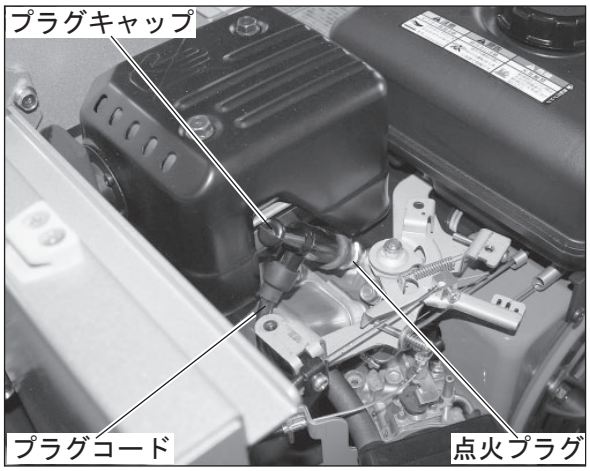
●エンジンが熱いうちに点火プラグを外さないでください。火傷のおそれがありますので、エンジンが冷えてから行ってください。

①定期的に点火プラグを取外し、電極部の焼け具合、損耗程度を点検し、ワイヤブラシで清掃します。

②電極部のすきまは0.７㎜に調整してください。

※始動不良、運転中の失火は点火プラグの電極すきまが大きすぎても少なすぎても、点火プラグが汚れたときにもおこります。





［重要］

●電極部の清掃、電極すきまの調整をしてもまだエンジンのかかりが悪い場合は、お買上げいただいた販売店・ＪＡで点検を受けてください。

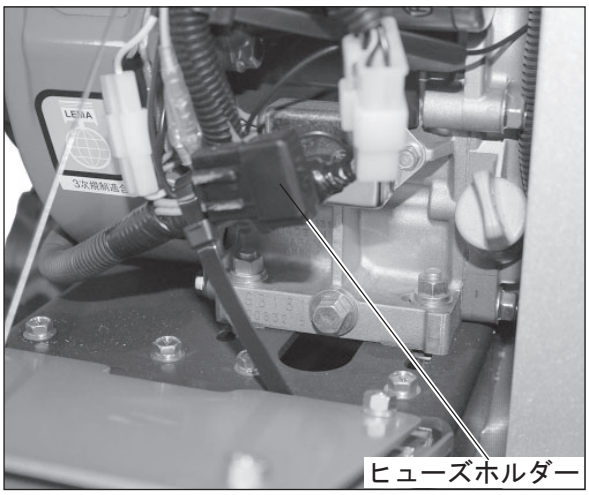
●電極部が損耗または、破損したものは新品と交換してください。そのまま使用するとエンジンの不調、燃料のムダ使い、排ガス不良となります。

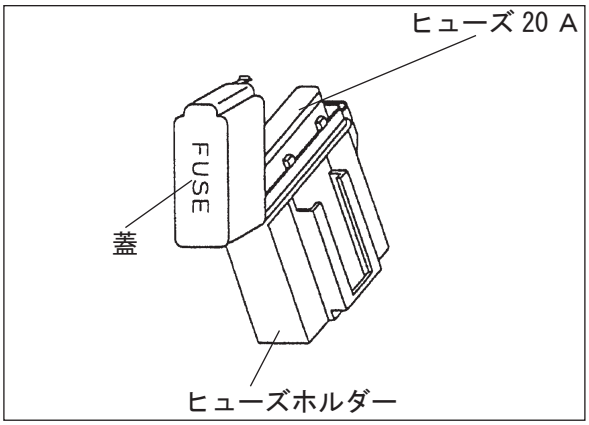
●プラグコード・プラグキャップは点火プラグに確実に差込んでください。

10．ヒューズの点検・交換のしかた

ヒューズは、配線回路（通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流を遮断します。

エンジン手前に、ヒューズホルダーがあります。ヒューズ切れの場合はそれぞれ２０Ａのヒューズと交換してください。





［重要］

●ヒューズを交換するときは、バッテリの㊀側コードを外してから、必ず規定容量のものと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用すると故障の原因になります。

●ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買上げいただいた販売店・ＪＡで点検を受けてください。

11. バッテリの点検・整備のしかた

⚠危険

●バッテリの点検・充電時は火気厳禁です。守らないと引火爆発し、火傷を負うおそれがあります。

●バッテリ液は希硫酸ですので身体や服に付くと、服が破れたり、火傷を負うことがあります。もし、身体や服に付いたときは、すぐに水洗いをしてください。目に入った場合は、大量の水で洗い流し、医師の診察を受けてください。

●バッテリからコードを外すときは、必ず㊀側から外し、取付けるときは、必ず㊉側から取付けてください。工具などが接触したときにショートして、火傷や火災事故をまねくおそれがあります。

●バッテリ㊉ターミナルのゴムブーツは必ず取付けておいてください。ショートすると火傷や火災事故をまねくおそれがあります。

●バッテリ充電中は、ガスが発生しますので風通しの良い場所で行ってください。

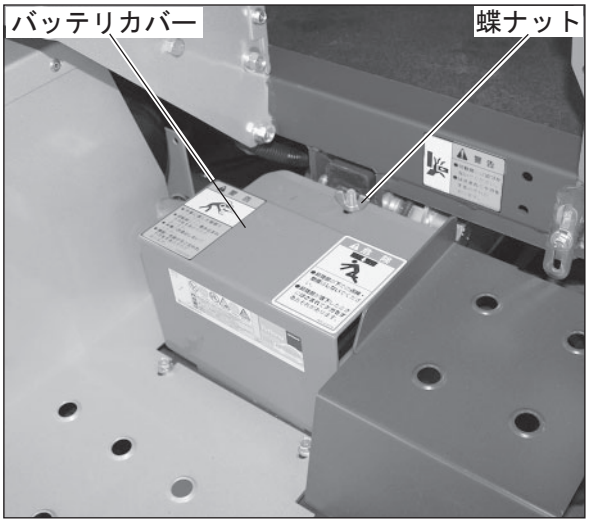
⚠警告

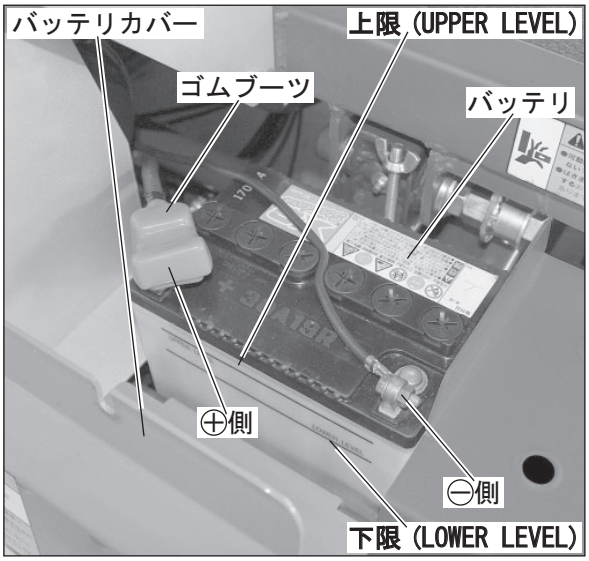
●バッテリ液は液面レベルの**「上限（UPPER LEVEL）」**と**「下限（LOWER LEVEL）」**の間にあることを確認してください。もし**「下限（LOWER LEVEL）」**以下になると、容器内の極板接続部が露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

●バッテリが破損して電解液が皮膚や衣類に付着した場合、すぐに水で洗い流してください。目に入った場合は、大量の水で洗い流し、医師の診察を受けてください。

バッテリ液点検

作業前には、蝶ナットをゆるめてバッテリカバーを外し、各槽のバッテリ液がバッテリケース液面レベルの**「上限（UPPER LEVEL）」**と**「下限（LOWER LEVEL）」**の間にあるか確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。





指定バッテリ	３０Ａ１９Ｒ

※蒸留水はガソリンスタンドで販売しています。

補充電のしかた

①バッテリの㊀側のコードを取外し、次に㊉側のコードを取外して、バッテリを取出します。

②充電は、バッテリの㊉を充電器の㊉側に、バッテリの㊀を充電器の㊀側に接続して行いますが、詳しくは、充電器の取扱説明書を十分お読みになってから行ってください。

※なお、急速充電はできるだけ避けて、普通充電を行ってください。

③バッテリを取付けるときは、取外しの逆の手順で行ってください。

格納のしかた

格納時は、製品を水平にし、バッテリ液がこぼれないようにしてください。
長期格納時は、バッテリの㊀側のコードを取外すか、バッテリを製品から取外し、日光が当たらない、乾燥した場所に保管してください。

[重要]

●バッテリ液は、常に規定量を保ってください。

●バッテリ液をバッテリケース液面レベルの「上限（UPPER LEVEL)」を超えるほど入れると、使用中に液もれし、製品を腐食させることがありますので､補給するときは､液面レベル「上限（UPPER LEVEL)」を超えないように注意してください。

●寒冷地などの気温の低い地域、またエンジンの始動がしにくくなってきましたら、補充電を行ってください。また、２週間以上運転しないと、バッテリが放電してセルスタータでの始動ができない場合があります。このときにも補充電をしてください。

●製品を長時間使用しないときは、最低１ケ月に１回は補充電を行ってください。バッテリが長持ちします。

●取付けのとき、ターミナル接続部の油などを布でふき取り、バッテリ端子を確実に締付けて、腐食防止のためにターミナル部にグリスを塗布してください。

●バッテリを交換するときは、必ず規定のバッテリを使用してください。

●環境保全のため、交換した古いバッテリは放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリを購入した店へ渡してください。

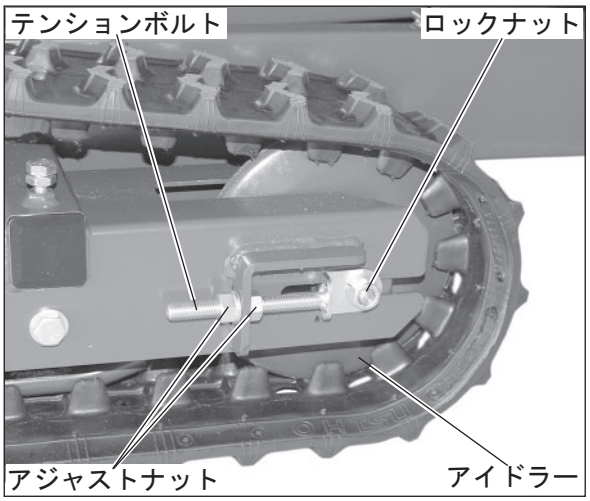
12. クローラの張り調整のしかた

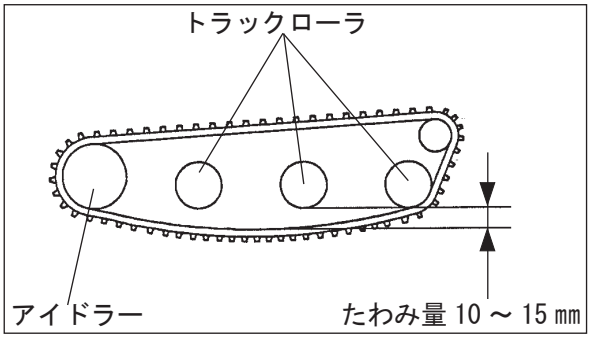
⚠注意

●テンションボルトの締込みは、左右均等に行ってください。調整後は､必ずアジャストナット･ロックナットを締込んでください。守らないと、クローラが外れたりして、思わぬ事故の原因となります。

①クローラがゆるんだときは、ジャッキなどで機体を持上げてから安全ブロックなどで降下しないように固定します。

②アイドラーの外側と内側のロックナットをゆるめ、アジャストナットでテンションボルトを締込んでクローラを張ります。このときのたわみ量が 10 ～ 15 ㎜程度にしてください。

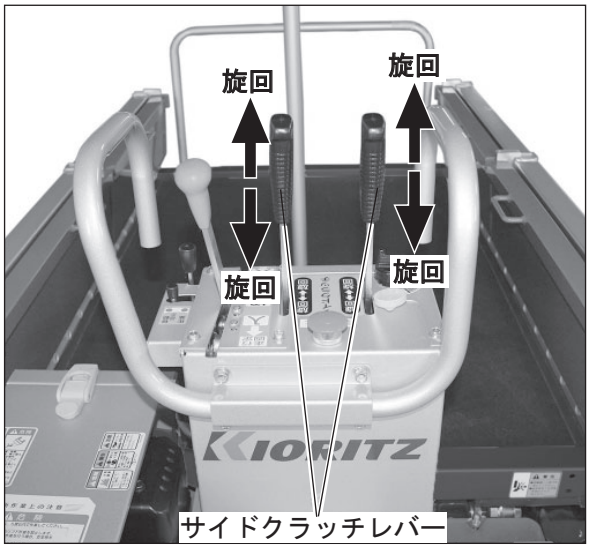


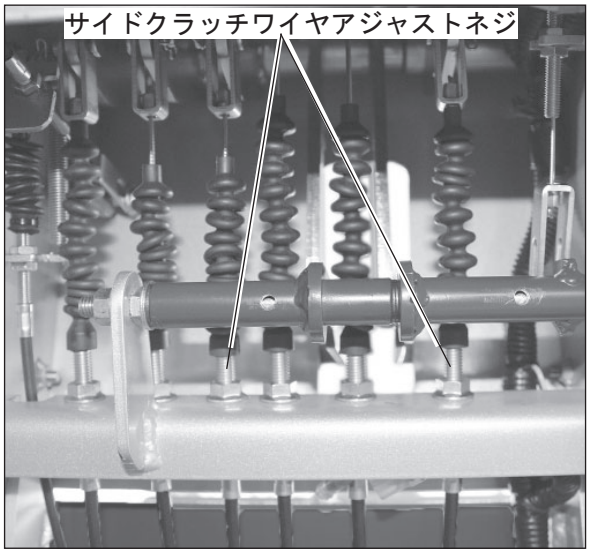


③調整後は、ロックナットを確実に締付けてアイドラーを固定してください。

13. サイドクラッチレバーの点検のしかた

確実にサイドクラッチレバーが**「入」・「旋回」**ができるか確認してください。もし、不具合がありましたら、サイドクラッチワイヤアジャストネジで調整します。調整についてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。



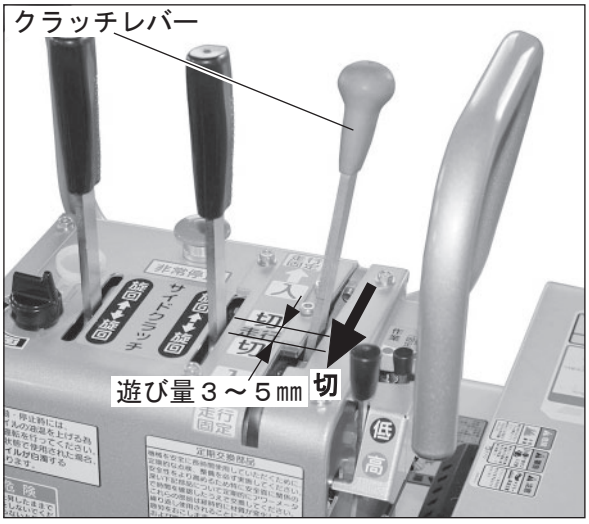


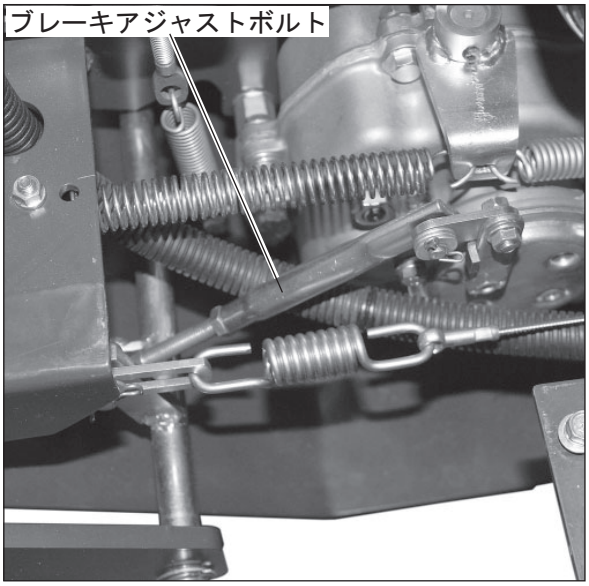
14. ブレーキの点検のしかた

⚠警告

●**ブレーキの効きが悪かったり、ブレーキが効いたままにならないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

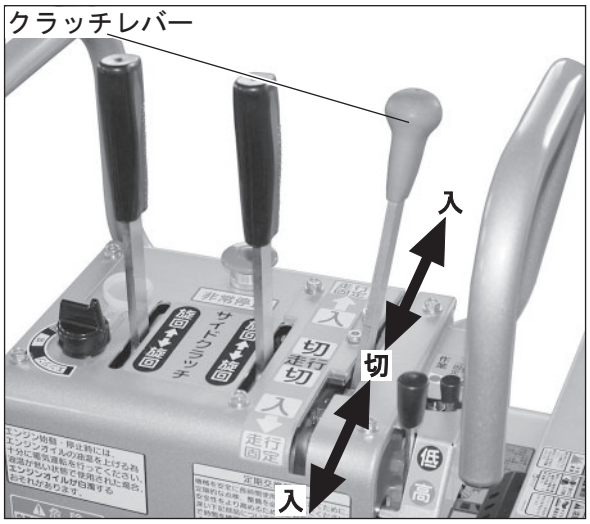
クラッチレバーを**「切（後側）」**位置にしたときの遊び量（３～５㎜）を調べてください。規定の遊び量がない場合は、ブレーキアジャストボルトで調整します。調整についてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

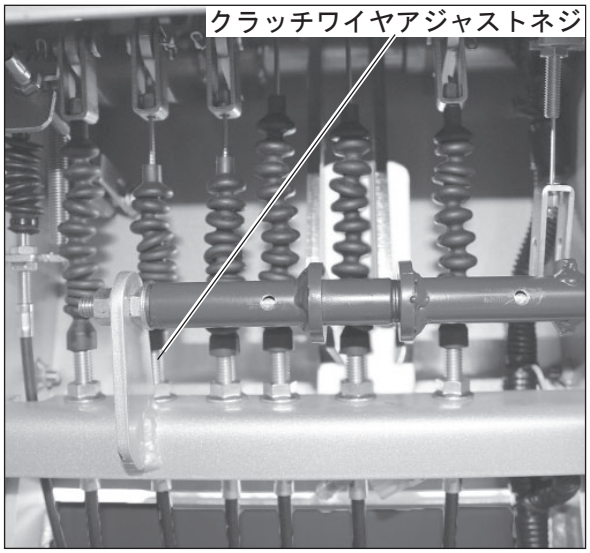




15. クラッチレバー の点検のしかた

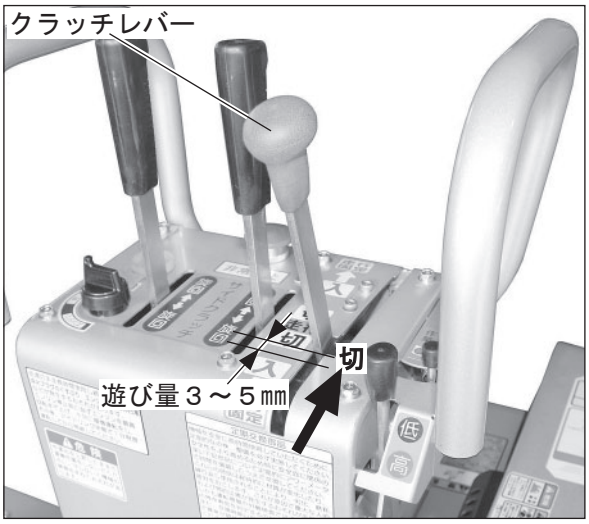
クラッチレバーが「入」、「切」が確実に行われ、しかも「切」位置でベルトがつれ回りをしていないか点検してください。もし、ベルトがスリップしたり、つれ回りをしている場合は、クラッチワイヤアジャストネジで調整します。調整については、販売店・ＪＡにご依頼ください。

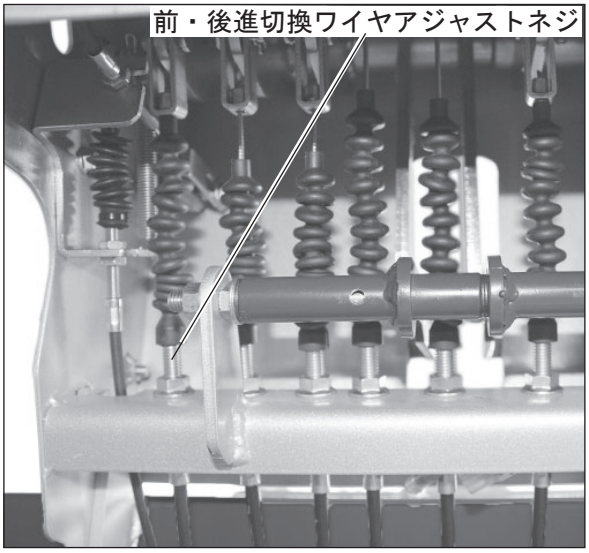




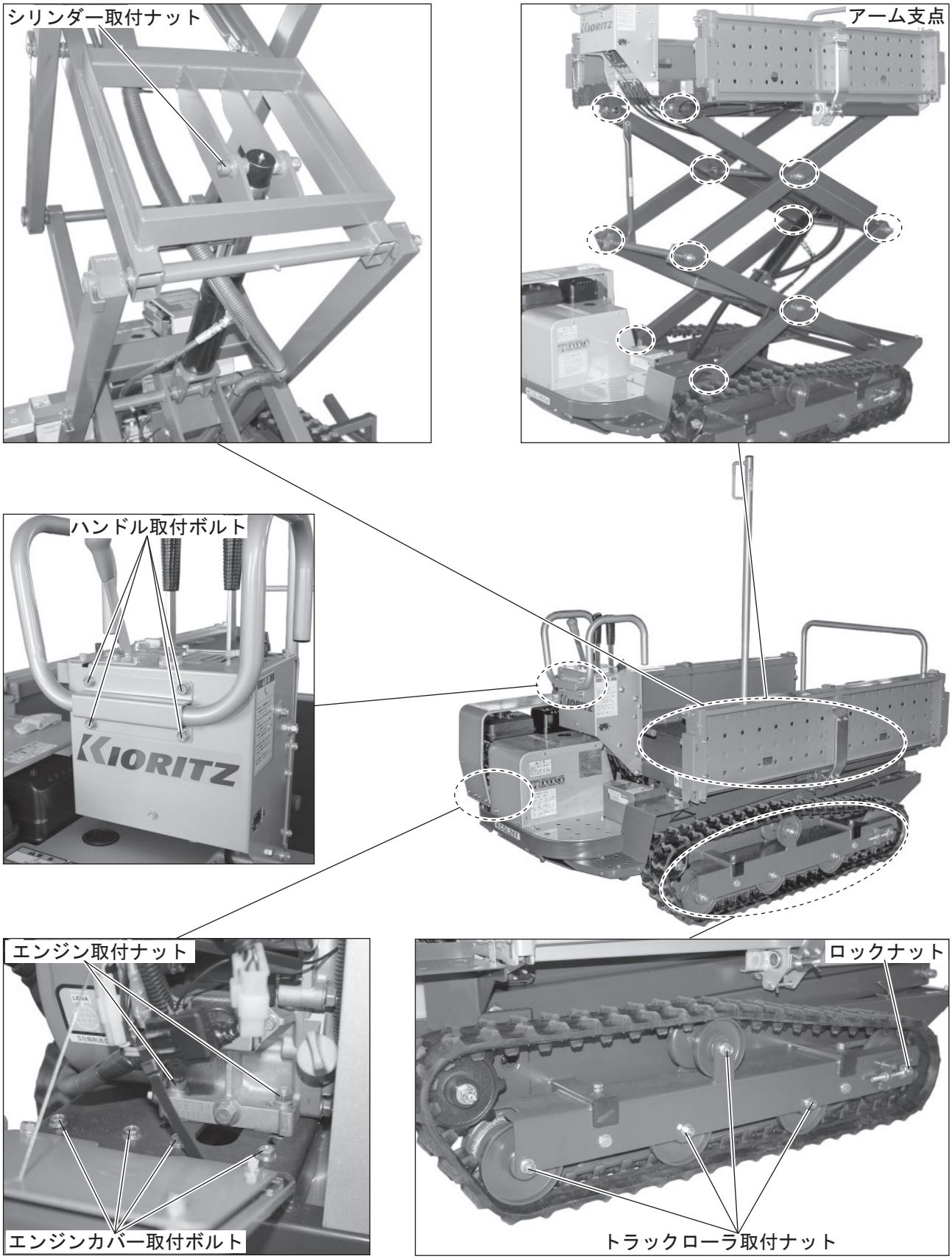
16. 前・後進切換 の点検のしかた

クラッチレバーを「切（前進）」位置にしたときの遊び量（３～５㎜）を調べてください。規定の遊び量がない場合は、前・後進切換ワイヤアジャストネジを調整します。調整についてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。





17. 締付けをするところ



※この他のボルト、ナットも時々点検し、増締めしてください。

⚠警告

●製品の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、クラッチレバーを「切」位置にしてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

下記の処置をしても改善されないときは、最寄の販売店・ＪＡに連絡してください。

1．エンジンがかからない

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
燃料が切れていませんか。	燃料の補給をしてください。	３３
エンジンの始動手順が間違っていませんか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	３４
クラッチレバーを「入」位置にしていませんか。	クラッチレバーを完全に「切」位置にしてから、キースイッチを「スタート」位置に回してください。	３４
非常停止スイッチが押したままになっていませんか。	クラッチレバーを完全に「切」位置にし、非常停止スイッチを押して「解除」してください。	４４
燃料に水が入っていませんか。	燃料こし器に水が溜まっていれば、燃料こし器を外して水抜きをしてください。	５６
点火プラグが悪くなっていませんか。	点火プラグを外し、乾いた布などで良く乾燥させてください。	５７
	点火プラグの電極部を清掃し、電極すきまを調整してください。それでもかからない場合は、販売店・ＪＡに相談してください。	５７
エンジン停止中にスライド台操作を長時間していませんか。	バッテリを充電してしください。	５９
バッテリが上がっていませんか。	バッテリを点検し、補充電をしてください。	５９
バッテリ液が減っていませんか。	蒸留水を補充してください。	５９
ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	５８

２．エンジンの力がない

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
エアクリーナにゴミが詰まっていませんか。	エレメントを取外し、灯油で洗い、オイルに浸し硬くしぼって取付けてください。	５６
エンジンオイルが少なくなっていませんか。	エンジンオイルを補給してください。また、オイルが古くなっている場合は、新しいオイルと交換してください。	５４
積荷が重すぎませんか。	坂道では特に積荷を軽くしてください。	４０
ベルトがスリップしたり、張りすぎていませんか。	必ず販売店・ＪＡで点検・調整を受けてください。	６２
排気ガスが有色ではありませんか。	エアクリーナの詰まり、エンジンオイルの量、質の悪い燃料などが考えられますので、販売店・ＪＡに相談してください。	５３・５６
エンジンオイルが白濁したり、点火プラグがくすぶっていませんか。	低速のまま長時間使用し続けると、点火プラグのくすぶり・エンジンオイルの白濁などが発生します。その場合、エンジンを始動し、最高回転でエンジンオイルの油温が十分上がるまで、暖機運転をしてください。それでも改善されない場合は、点火プラグの清掃、またはエンジンオイルを交換してください。	2・５４・５８
エンジンの回転は上がりますか。	アクセルレバーの取付け位置や、アクセルワイヤのセット位置が動いていたら、必ず販売店・ＪＡで点検・調整を受けてください。	
エンジンの圧縮がないのではありませんか。	ピストンリングなどの磨耗も考えられますので、販売店・ＪＡに相談してください。	

３．各部に振動が多い

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
昇降部がぐらついていませんか。	昇降部のボルト・ナットを強く締付けてください。	６３
エンジンが振れるのではありませんか。	エンジン取付ナットを強く締付けてください。	６３

8章 用語解説

あ　行

アイドラー　遊動輪とも呼ばれ、クローラの張りを調整するトラックローラ。

イグニッションコイル　内燃機関の点火装置で高電圧を発生させるための誘導コイル。

か　行

グリスアップ　グリスポンプでグリスニップルにグリスを注入すること。

クローラ　走行用ゴム履帯。

さ　行

サイドクラッチレバー　旋回するための操作レバー。

走行ミッション　変速と減速を行う歯車装置。

た　行

トラックローラ　転輪とも呼ばれ、クローラを支えることを目的とした装置。

ら　行

リコイルスタータ　手動式でエンジンを始動させる装置。

リフト　作業荷台を上昇、下降すること

1．主要諸元

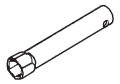
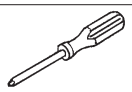
型式名			ＫＣＧＬ２６１
機体寸法	全長（㎜）		１８９０（荷台先端～ステップ後端）
	全幅（㎜）		１１３０（フレーム外側～外側）
	全高（㎜）		１０５０（ハンドル上端）
機体質量（kg）			４７５
エンジン	型式名		エンジン　ＧＢ１３１ＬＥ
	種類		空冷４サイクル　１シリンダー　ガソリン
	最大出力 {kW(ps)}		３．０（４．２）
	定格出力／回転速度 {kW(ps)/rpm}		２．３（３．１）／１８００
	総排気量 {L(cc)}		０．１２６（１２６）
	始動方式		セルモータ式（リコイルスタータ式）
	燃料／タンク容量（L）		自動車用無鉛ガソリン／２．５
伝動・走行部	変速段数		前進１段　後進１段
	走行速度（km/h）	前進	２．１
		後進	２．１
	クローラ幅（㎜）		１６０
	トレッド（㎜）		９５０
	接地長（㎜）		９９０
	ブレーキ型式／取付位置		内部拡張式／ミッションブレーキ軸
荷台	寸法（㎜）	長さ	１３６０
		幅	９００
	最大作業能力（kg）		２００（運搬時）
	最大作業能力（kg）		１２０（リフト時）
	床面最低高（㎜）		４９０
	床面最大高（㎜）		２６００

●この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

２．主要消耗部品

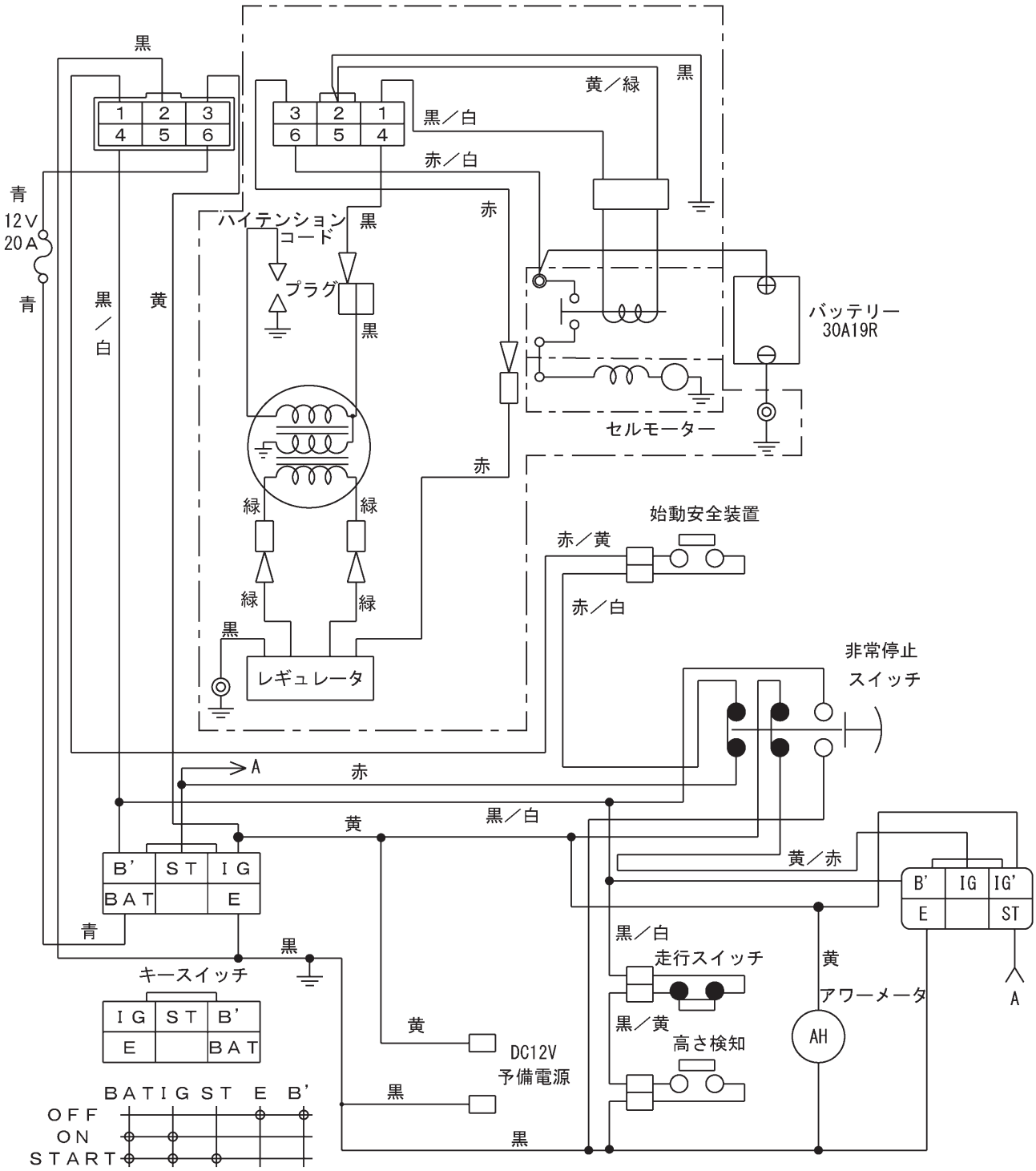
NO.	品名	部品番号	備考
１	ＶベルトＢ２３	２５１１３－００２３００	油圧用
２	ＶベルトＳＢ３０	２５１２３－００３００１	走行用
３	アクセルワイヤＳＡ	１Ｅ１２６０－５１１１０	
４	アクセルワイヤＢ	１Ｅ１２６０－５１０６０	
５	コントロールワイヤ	１Ｅ１２６０－５１０３０	２本　油圧用
６	サイドクラッチワイヤ	１Ｅ１２６０－５１０４１	２本
７	コントロールワイヤ	１Ｅ１２６０－５１０２０	前・後進切換レバー
８	クラッチワイヤ	１Ｅ１２６０－５１０１０	
９	チョークワイヤ	１Ｅ１２６０－５１１００	
１０	クローラ	１Ｎ３５１９－３７０００	２本　１６０×６０×４７
１１	ブレーキシューＡＳＹ	７Ｎ１２９１－２５０１０	
１２	バッテリ	１Ｎ１２８６－５１０９０	３０Ａ１９Ｒ
１３	点火プラグ	ＫＥ４１００２ＡＡ	ＮＧＫ－ＢＰＲ４ＨＳ
１４	エアクリーナエレメント	ＫＡ０１１０８ＡＡ００３	

付属品

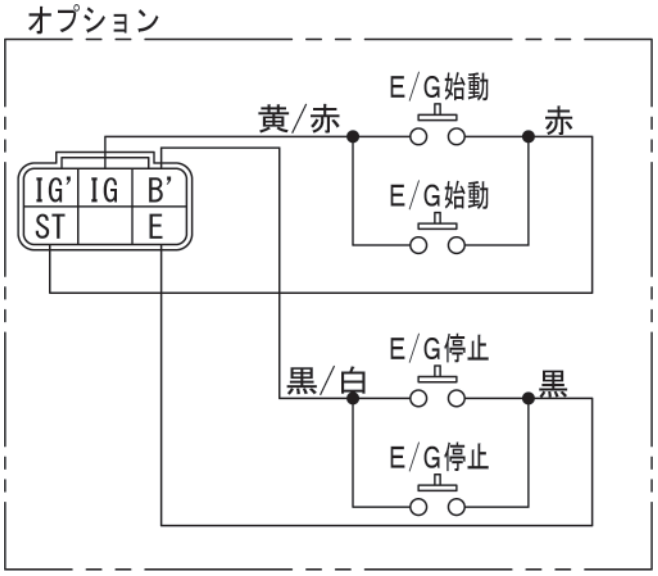
No.	品名	個数		部品番号	備考
１	シートカバー	１		ＫＣＧＳＣ／３０	
２	墜落制止用器具	１		１Ｎ３５９０－６４７６０	
３	ボックススパナ（Ｌ＝185）	１		ＫＮ１２００７ＡＡ	
４	スクリュードライバ	１		ＫＮ１３００２ＡＡ	
５	エンジン取扱説明書	１		ＫＮ５２０５３ＡＡ	
６	取扱説明書	１		１Ｅ１２６０－９５１４０	
７	保証書	１			

※付属品がすべてあるか確認してください。もし不足している物があれば、お買上げいただいた販売店・ＪＡに連絡してください。

●エンジンＧＢ１３１ＬＥ



●オプション



株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0120-176-181(製品・技術的な問い合わせ)
受付時間:弊社営業日　9:00~12:00 / 13:00~17:00

やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0428-32-6181（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

(C) 2017 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。